

シラバス (基礎分野)

科学的思考の基礎・人間と生活・社会の理解	生活科学
	論理学
	家族社会学
	英語Ⅰ・Ⅱ
	情報科学
	保険体育
	自然科学（物理学）
	自然科学（生物学）
	人間関係論（心理学）
	人間関係論（カウンセリング論）
	教育学
	生命倫理
	文化人類学

科目区分	基礎分野	履修学年	1 年前期	単位数	1	時間数	15
科目名	英語 I			担当教員	桐ヶ谷 みゆき		
テキスト	南雲堂 Speaking of Nursing 看護学生のための英語コミュニケーション						
到達目標 1. 日常生活での基本的英会話ができる。 2. 医療現場でよく使われる英会話ができる。							

回数	学習内容	授業形態
1	講義内容・テキストの説明 / Unit1 Asking basic questions	講義
2	Unit1 Asking basic questions / Unit2 A patient's first visit	講義
3	Unit3 Where's Internal Medecine?	講義
4	Unit4 Admission to the hospital	講義
5	Unit5 Giving information	講義
6	Unit6 Symptoms	講義
7	Unit1～6 復習、見直し	講義
8	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験 100%	
備考		

科目区分	基礎分野	履修学年	2 年後期	単位数	1	時間数	15
科目名	英語Ⅱ			担当教員	桐ヶ谷 みゆき		
テキスト	1) 医学書院 クリスティーンのやさしい看護英会話						
到達目標 1. 医療・看護場面で使われる英会話ができる。							

回数	授業計画 学習内容	授業形態
1	英語Ⅰ 復習 Unit6 What are your symptom?	講義
2	Unit7 Where does it hurt?	講義
3	Unit8 Have you ever had any serious illness? Unit9 Take one tablet,fourtimes a day.	
4	Unit10 Let me make an appointment for your test.	講義
5	Unit11 Your surgery will be tomorrow at 9 a.m.	講義
6	Unit12 How are you feeling today?	講義
7	Unit6～12 復習	講義
8	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験 100%	
備考		

科目区分	基礎分野	履修学年	1 年後期	単位数	1	時間数	15
科目名	家族社会学			担当教員 (実務関連資格)	渡邊さか江 (看護師・助産師)		
テキスト	テキスト以外の参考資料を基に教材を作成、提示する						
<u>到達目標</u> 1. 歴史・社会制度の変化に伴う、家族のあり方を理解する。 2. 近代社会の家族の特徴・意味・役割を理解する。 3. これからの家族のあり方を学ぶ。							

回数	学習内容	授業形態
1	家族社会学の導入 「家族」の定義と概念	講義
2	家族形成のメカニズム：恋愛，結婚，出産 現代における家族の多様なあり方	講義
3	家族のライフサイクルと課題：離婚・再婚・高齢期の家族，	講義
4	現代社会と家族の問題：貧困・虐待・社会的支援	講義
5	親密性のゆくえ：未来の家族を考える（1） これからの家族関係についてディスカッション	演習
6	親密性のゆくえ：未来の家族を考える（2）	演習
7	親密性のゆくえ：未来の家族を考える（3）	講義，演習
8	終講試験 レポート	
評価	グループワーク 25% レポート 25% 筆記試験 50%	
備考	事前課題・課題については直前シラバスに提示する。	

科目区分	基礎分野	履修学年	1 年後期	単位数	1	時間数	15
科目名	教育学			担当教員	小沢 恵美子		
テキスト	『看護のための教育学 第2 版』 中井俊樹・小林忠資編著 医学書院						
到達目標 1. 教育の意義や機能を学び、教育に関連する基本的知識を理解する。 2. 自分が指導者になった際に必要となる知識を説明できる。 3. 学んだ内容を看護と関連させて、具体的な場面を想定して説明できる。 4. 看護師となってからの学びについて理解する。							

回数	学習内容	授業形態
1	テキスト1章 学ぶことと教えること テキスト3章 学習の原理を理解する	講義
2	テキスト5章 指導を設計する	講義
3	テキスト7章 学習を評価する	講義
4	テキスト8章 学習意欲を高める技法	講義
5	テキスト9章 コーチングの技法	講義
6	テキスト11章 リフレクションの技法	講義
7	テキスト12章 看護師としての学習を理解する	講義
8	終講試験 まとめ解説	
評価	リアクションペーパー 筆記試験	
備考		

科目区分	基礎分野	履修学年	1 年前期	単位数	1	時間数	15
科目名	自然科学（生物学）			担当教員	宮崎 利明		
テキスト	1) 系統看護学講座 基礎分野 生物学 第 10 版						
<u>到達目標</u> 1. 生物の基本構造である細胞について説明できる。							

回数	学習内容	授業形態
1	生物の基本構造	講義
2	細胞分裂	講義
3	遺伝子とタンパク質 酵素（1）	講義
4	遺伝子とタンパク質 酵素（2）	講義
5	生殖と発生	講義
6	エネルギーの産生 代謝、異化・同化	講義
7	エネルギーの産生 代謝、異化・同化	講義
8	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験 出席状況	
備考		

科目区分	基礎分野	履修学年	1 年前期	単位数	1	時間数	15
科目名	自然科学（物理学）			担当教員	宮崎 孝		
テキスト	1)医学書院 系統看護学講座 基礎分野 物理学						
<u>到達目標</u> 1. 自然科学（物理学）の基本的原理と考え方を説明できる。 2. 看護の現状や課題、患者と生活との関連について自然科学（物理学）により説明できる。 3. 熱・温度・音・光・電気と磁気について自然科学（物理学）の法則を用いて説明できる。 4. 薬物や放射線が健康・生活に与える影響について自然科学（物理学）から説明できる。 5. 災害が健康・生活に与える影響について自然科学（物理学）から説明できる。 6. 看護の実践を的確に記録できる。 7. 看護の実践を客観的に評価できる。							

回数	学習内容	授業形態
1	物理学とは何か 物質を構成する原子・分子・細胞	講義・演習
2	運動と力、力と加速度、等速直線運動、力のつり合い、力のモーメント、重心、仕事とエネルギー、圧力	講義・演習
3	熱と温度、熱と仕事、エネルギー保存の法則、熱機関の効率 熱力学第二法則	講義・演習
4	音の伝わり方、ドップラー効果、光の基本的な性質、光の干渉、光と色	講義・演習
5	電気とは何か、原子と電気、静電気力、電場、電位、電流と抵抗、電力と電力量、電流と磁場、電磁誘導	講義・演習
6	原子の構造、原子核と放射線、 α 線、 β 線、 γ 線、放射能と放射線の単位	講義・演習
7	放射線の人体への影響、医療における放射線の利用、放射線	講義・演習
8	終講試験 まとめ	
評価	出席状況、授業中行う演習と筆記試験の結果で総合評価する	
備考		

科目区分	基礎分野	履修学年	3 年後期	単位数	1	時間数	15
科目名	情報科学			担当教員	宮嶋 由佳		
テキスト	1) ナースのための統計学第 2 版 高木廣文著 医学書院						
<u>到達目標</u> 1. 統計の基本的方法・理論を理解できる。 2. 代表値、散布度を理解できる。 3. t 検定について理解できる。							

回数	学習内容	授業形態
1	度数分布表とヒストグラム	講義
2	代表値 計算	講義
3	散布度 1 (範囲、分散)	講義
4	散布度 2 (標準偏差)、正規分布	講義
5	散布度 3 (変動係数)、母平均の推定	講義
6	t 検定	講義
7	まとめ	講義
8	試験	
評価	筆記試験 100%	
備考		

科目区分	基礎分野	履修学年	3 年後期	単位数	1	時間数	15
科目名	人間関係論（カウンセリング論）			担当教員	久 雅子		
テキスト	医学書院 心理学						
<u>到達目標</u> 1. より良い人間関係形成の方法を理解する。 2. 対人関係改善について理解する。							

回数	学習内容	授業形態
1	心の適応と不適応	講義
2	心理療法（1）心理療法とカウンセリング	講義
3	心理療法（2）精神分析療法 行動療法	講義
4	心理療法（3）来談中心療法 認知行動療法	講義
5	医療職と対人援助	講義
6	患者の心理 医療・看護職の心理	講義
7	医療・看護職の心のケア	講義
8	終講時試験・振り返り	試験
評価	筆記試験 100%	
備考		

科目区分	基礎分野	履修学年	1 年前期	単位数	1	時間数	15
科目名	人間関係論（心理学）			担当教員	久 雅子		
テキスト	講義の中で、参考資料を配布します。						
<u>到達目標</u> 1. 心理学の基本的知識を理解できる。							

回数	学習内容	授業形態
1	心理学とは 感覚と知覚 記憶	講義
2	思考・言語・知能	講義
3	学習	講義
4	感情と動機づけ	講義
5	性格とパーソナリティ 社会と集団（対人関係の心理）	講義
6	社会と集団の心理	講義
7	発達心理臨床	
8	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験 100%	
備考		

科目区分	基礎分野	履修学年	1 年前期	単位数	1	時間数	15
科目名	生活科学			担当教員 (実務関連資格)	本澤 嘉奈子 (看護師、公認心理師)		
テキスト	1) 現代社発行 看護覚え書 Florence Nightingale 著 湯楨ます 他訳						
<u>到達目標</u> 1. 環境因子が健康に与える影響について理解できる。 2. 健康状態をよりよく保つために、生活環境を整えることの重要性を理解できる。 3. 自身の生活環境を振り返り、健康維持・増進に向けた課題を持つことができる。							

回数	学習内容	授業形態
1	ナイチンゲールと「看護覚え書」について	講義
2	看護覚え書から健康維持・増進のための生活環境を考察する①	講義
3	看護覚え書から健康維持・増進のための生活環境を考察する②	講義
4	看護覚え書から健康維持・増進のための生活環境を考察する③	講義
5	看護覚え書から健康維持・増進のための生活環境を考察する④	講義
6	看護覚え書から健康維持・増進のための生活環境を考察する⑤	講義
7	生活改善の評価と再考察（グループディスカッション）	講義
8	生活改善の実践報告発表	演習
評価	授業への取り組み、レポートで総合的に判断する	
備考	事前課題・課題については直前シラバスに提示する。	

科目区分	基礎分野	履修学年	1 年前期	単位数	1	時間数	15
科目名	生命倫理			担当教員 （実務関連資格）	田中知雄・菅谷梨香（看護師） 渡邊さか江（助産師）		
テキスト							
<u>到達目標</u> 1. 医療の発展とともにどのような倫理的問題が発生したのかを理解することができる。 2. ビーチャムとチルドレスの 4 つの原則を学び、倫理的問題を見つけ考え続けることの大切さを理解することができる。							

回数	学習内容	授業形態
1	看護学校で「倫理」「生命倫理」を学ぶことの意味 「倫理」とは、「生命倫理」という領域の発展とその背景 生命倫理の諸問題『戦争・テロ』『児童虐待・(いじめ・DV)』	講義・演習
2	「価値観」の形成と変容、そして多様化 個々の価値観に基づいて構築される「倫理」：パターナリズムから自己決定へ 生命倫理の諸問題『クローン人間（技術）』『終末期医療（緩和ケア）・延命処置』	講義・演習
3	生命観の変遷と生命の価値基準 生命倫理の諸問題『殺人・死刑制度』『脳死・臓器移植』	講義・演習
4	ビーチャムとチルドレスの「医療倫理の 4 原則」 生命倫理の諸問題『自殺・安楽死・尊厳死』『医療事故死』	講義・演習
5	終末期の患者の倫理的問題について	講義
6	生命の誕生、胎児の人権	講義
7	出生前診断、女性の自己決定権	講義
8	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験 25% レポート 75%	
備考	事前課題・課題については直前シラバスに提示する。	

科目区分	基礎分野	履修学年	2 年後期	単位数	1	時間数	15
科目名	文化人類学			担当教員	牧野 修也		
テキスト							
<u>到達目標</u> 1. 世界の文化の概要がわかる。 2. 身近な地域の文化を観察しレポートにまとめることができる。							

回数	学習内容	授業形態
1	文化人類学とは 文化人類学の研究対象	講義
2	ヨーロッパの文化	講義
3	アジアの文化	講義
4	日本の文化	講義
5	フィールドワーク 文献検索	講義
6	フィールドワーク 文献検索	演習
7	フィールドワーク 文献検索	演習
8	レポート提出 まとめ	
評価	レポート	
備考		

科目区分	基礎分野	履修学年	1 年後期	単位数	1	時間数	15
科目名	保健体育			担当教員	鈴木 明		
テキスト	講義の中で、参考資料を配布します。 参考書は適宜紹介します。						

<u>到達目標</u> 1. 健康増進・疾病予防に役立つ食・運動・休養の方法を理解できる。 2. 健康を支える基礎的な知識を習得し、現在や将来に起こりうる健康課題に対して対応できうるような健康の認識を高める。 3. 理論と実践から身体運動についての理解を深め、健康における重要性を学ぶ。 4. 生活の中に運動を取り入れる必要性を学ぶ。

回数	学習内容	授業形態
1	健康の概念	講義
2	ヘルスプロモーション、生活習慣病、アルコールと健康	講義
3	運動・栄養と健康 トレーニングの基礎理論	講義
4 5	体育実技Ⅰ：ストレッチ、じゃんけんゲーム、ドッデビー 体育実技Ⅱ：ソフトバレーボール	実技演習
6 7	体育実技Ⅲ：体力チェックテスト ボッチャ 体育実技Ⅳ：ボッチャ	実技演習
8	終講試験	
評価	<成績評価方法> 平常点(座学講義時にはショートテストを行う) 20% 筆記試験 40% 実技(授業への参加、習熟度、コミュニケーション力などを総合的に評価する) 40% <評価基準> 1. 健康を支える基礎的な知識を習得できたか。 2. 理論と実践から身体運動についての理解を深め、健康上のさまざまな状況に適宜対応できる知識と身体能力を習得できたか。 3. 心身のコンディションを自己管理する重要性を理解し、基礎的手法を習得できたか。	
備考		

科目区分	基礎分野	履修学年	1 年後期	単位数	1	時間数	15
科目名	論理学			担当教員	小沢 恵美子		
テキスト 他	『頭がスッキリする思考の整え方』 出口汪著 水王舎 参考書：『看護学生のための「読む力」「書く力」レッスン BOOK』 坂井浩美・山崎啓子 日本看護協会出版会						
<u>到達目標</u> 1. 「論理とは何か」を自分の言葉で説明できる。 2. 文章を正確に読み取り、その内容を他者にわかりやすく伝えられる。 3. 読み手にとってわかりやすい文章を書くことができる。 4. 目的を持ったスピーチができる。							

回数	学習内容	授業形態
1	テキスト第 1 章（導入編）	講義
2	テキスト第 2 章（原理編） 1 分間スピーチ	講義
3	テキスト第 3 章（インプット編） 1 分間スピーチ	講義
4	テキスト第 4 章（アウトプット編） 1 分間スピーチ	講義
5	テキスト第 4 章（アウトプット編） 1 分間スピーチ	講義
6	テキスト第 5 章（発展編） 1 分間スピーチ	講義
7	600 字程度の文章を書く	講義
8	終講試験 まとめ解説	
評価	授業内で行うスピーチ、課題プリント、リアクションペーパー 筆記試験	
備考		

シラバス

(専門基礎分野)

人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ
	解剖生理学Ⅱ
	解剖生理学Ⅲ
	解剖生理学Ⅳ
	生化学
疾病の成り立ちと回復の促進	栄養学
	感染症と微生物
	病理学
	臨床検査
	病態学Ⅰ
	病態学Ⅱ
	病態学Ⅲ
	病態学Ⅳ
	病態学Ⅴ
	薬理学
健康支援と社会保障制度	医療と法律
	社会保障
	社会福祉
	関係法規
	公衆衛生

科目区分	専門基礎分野	履修学年	1 年前期	単位数	1	時間数	30
科目名	解剖生理学 I			担当教員 (実務関連資格)	中野真実 (看護師)		
テキスト 他	1) 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能【1】解剖生理学 医学書院 1) メディカ出版 人体の構造と機能 ①解剖生理学 2) 看護形態機能学 生活行動から見るからだ 日本看護協会出版 3) 目でみるからだのメカニズム 医学書院						
<u>到達目標</u> 1. 看護の視点から日常生活行動の意味を考え、解剖生理学の外観が理解できる。 2. 細胞と組織のしくみと構造が理解できる。 3. 物質の流通機構(血液・心臓)のしくみと働きが理解できる。 4. 呼吸のしくみと働きを理解できる。 5. 生殖器系の構造としくみと働きが理解できる							

回数	学習内容	授業形態
1	解剖生理学とは 解剖生理学のための基礎知識	講義
2	全身の臓器の形と位置	講義
3	造血機能と血液の働き	講義
4	凝固のメカニズム 血液型	講義
5	心臓の各部位	講義
6	刺激伝導系と不整脈	講義
7	血管と循環	講義
8	リンパ系	講義
9	ショックとは	講義
10	呼吸器の構造	講義
11	内呼吸と外呼吸 呼吸運動	講義
12	呼吸器量 ガス交換とガスの運搬	講義
13	女性生殖器の構造と機能	講義
14	卵巣周期・月経周期	講義
15	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

科目区分	専門基礎分野	履修学年	1 年前期	単位数	1	時間数	30
科目名	解剖生理学Ⅱ			担当教員 (実務関連資格)	中野真実 (看護師)		
テキスト 他	1) 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能【1】解剖生理学 医学書院 1) 目でみるからだのメカニズム 医学書院 2) 看護形態機能学 生活行動から見るからだ 日本看護協会出版 3) メディカ出版 人体の構造と機能 ①解剖生理学						
<u>到達目標</u> 1. 日常生活行動の中で「動く」ということの意味を理解できる。 2. 日常生活に関連する体の動きを理解できる。 3. 「動く」ために必要な骨・関節・筋肉の基本的構造と働き、伝達経路を理解できる。 4. 「動く」ために必要な情報を得るための見る・聞く・話すに必要な器官と機能について理解できる。 5. 危険から身を守るための動きに関連する嗅覚・触覚・反射について理解できる。 6. 身体をよりよく動かすために調整し命令する脳と神経系について理解できる							

回数	学習内容	授業形態
1	解剖生理学Ⅱとは	講義
2	全身の骨の名前 生理的機能	講義
3	骨のモデリング	講義
4	全身の筋の名前 関節の動き	講義
5	筋収縮のメカニズム 関節の構造と仕組み	講義
6	脳幹・小脳・間脳・大脳	講義
7	脳幹・小脳・間脳・大脳	講義
8	脳室と髄膜 脳脊髄液の循環	講義
9	脊髄神経の構造と機能	講義
10	脳神経の構造と機能	講義
11	眼の構造 眼房水・涙含む	講義
12	眼の機能 視力・色覚	講義
13	耳の構造と機能	講義
14	味覚器・嗅覚期の構造と機能	講義
15	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験	
備考	課題、課題については直前シラバスに提示する。	

科目区分	専門基礎分野	履修学年	1 年前期	単位数	1	時間数	30
科目名	解剖生理学Ⅲ			担当教員 (実務関連資格)	中野真実 (看護師)		
テキスト 他	1) 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能【1】解剖生理学 医学書院 1) 目でみるからだのメカニズム 医学書院 2) 看護形態機能学 生活行動から見るからだ 日本看護協会出版 3) メディカ出版 人体の構造と機能 ①解剖生理学						
<u>到達目標</u> 1. 「食べる」という日常生活行動を体のどの器官を使い、どのように機能しているか理解できる。 2. 「食べる」に関わる肝臓・膵臓・胆嚢のはたらきが理解できる。 3. 「トイレに行く」という日常生活行動を体のどの器官を使い、どのように機能しているか理解できる。							

回数	学習内容	授業形態
1	解剖生理学Ⅲ 導入	講義
2	消化管の道のり	講義
3	咽頭・食道・胃の構造と機能	講義
4	小腸の構造と機能 栄養素の消化と吸収	講義
5	大腸の構造と機能	講義
6	肝・胆・膵の構造	講義
7	肝臓の機能 門脈	講義
8	腎臓 尿を作るしくみ	講義
9	腎臓 血圧の調整	講義
10	尿管・膀胱・尿道の構造と機能	講義
11	排尿反射	講義
12	体液と浸透圧	講義
13	酸塩基平衡①	講義
14	酸塩基平衡②	講義
15	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験 提出物	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

科目区分	専門基礎分野	履修学年	1 年前期	単位数	1	時間数	30
科目名	解剖生理学Ⅳ			担当教員 (実務関連資格)	中野真実 (看護師)		
テキスト 他	1) 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能【1】解剖生理学 医学書院 1) 目でみるからだのメカニズム 医学書院 2) 看護形態機能学 生活行動から見るからだ 日本看護協会出版 3) メディカ出版 人体の構造と機能 ①解剖生理学						
<u>到達目標</u> 1. 生体の防御について理解できる。 2. 調節機構としての液性調節と神経性調節が理解できる。 3. フィードバック機構が理解できる 4. 各内分泌機関の構造と機能が理解できる							

回数	学習内容	授業形態
1	解剖生理学Ⅳ導入	講義
2	皮膚の構造と機能	講義
3	生体の防御機構①	講義
4	生体の防御機構②	講義
5	生体の防御機構③	講義
6	神経調節と液性調節 フィードバック機構	講義
7	視床・視床下部の構造と機能	講義
8	甲状腺・副甲状腺の構造と機能	講義
9	副腎の構造と機能	講義
10	その他のホルモン	講義
11	自律神経	講義
12	脳神経	講義
13	睪臓の副腎の構造と機能	講義
14	糖代謝	講義
15	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する	

科目区分	専門基礎分野	履修学年	1 年後期	単位数	1	時間数	15
科目名	生化学			担当教員	宮崎 孝		
テキスト	1) 系統看護学講座 人体の構造と機能 2 生化学／医学書院 1) 系統看護学講座 人体の構造と機能 1 解剖生理学／医学書院 2) 照林社 安谷屋均 著 看護学生のための解いておぼえる生化学ドリル						
<u>到達目標</u> 1. 細胞の構造・機能・細胞内小器官について説明できる。 2. 代謝と生体エネルギー・酵素の活性調節・酵素反応における補因子・ビタミン・酵素の反応速度・について説明できる。 3. 糖質の構造・機能・消化・吸収・分解について説明できる。 4. 脂質の構造・機能・脂肪酸の分解・脂質の合成・脂質代謝を説明できる。 5. タンパク質の構造・機能・消化・吸収・分解について説明できる。 6. 遺伝情報と遺伝子の転写・翻訳と翻訳後修飾説明できる。 7. がんの性質・がん遺伝子・がん抑制遺伝子・染色体転座・がん薬物療法を説明できる。							

回数	学習内容	授業形態
1	細胞の構造・機能・細胞内小器官の働き	講義
2	代謝・生体エネルギー・酵素の活性調節・酵素反応における補因子・ビタミン・酵素の反応速度	講義
3	糖質の構造・機能・消化・吸収・分解・代謝・合成	講義
4	脂質の構造・機能・分解・合成・代謝・合成	講義
5	タンパク質の構造・機能・消化・吸収・分解・合成	講義
6	遺伝情報と遺伝子の転写・翻訳・翻訳後修飾・シグナル伝達・遺伝性疾患・遺伝子疾患	講義
7	がんの性質・がん遺伝子・がん抑制遺伝子・染色体転座・ガン薬物療法	講義
8	筆記試験	
評価	筆記試験	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

科目区分	専門基礎分野	履修学年	1 年後期	単位数	1	時間数	15
科目名	栄養学			担当教員	中里 浩一		
テキスト 他	1) 系統看護学講座 専門基礎3 人体の構造と機能【3】 栄養学／医学書院 2) 系統看護学講座 専門基礎3 人体の構造と機能【2】 生化学／医学書院 3) 系統看護学講座 別巻栄養食事療法 医学書院						

到達目標

1. 栄養素の種類、意義が理解できる。

2. 健康の保持増進に必要な栄養素について理解できる。

3. 臨床栄養について理解できる。

4. 栄養管理に関する各種プロセスが理解できる。

5. 栄養に関連する職種が連携したチームケアの重要性を理解し看護師の役割がわかる。

回数	学習内容	授業形態
1	栄養素とは 3大栄養素 消化と代謝	講義
2	ビタミン・ミネラルの種類と特徴	講義
3	チーム医療 栄養ケアマネジメント	講義
4	カロリー・BMI 計算 栄養スクリーニング	講義
5	高齢者における食事栄養療法	講義
6	循環器疾患患者の栄養食事療法 消化器疾患患者の栄養食事療法	講義
7	腎・泌尿器疾患患者の食事療法 栄養代謝性疾患患者の栄養食事療法 栄養、食事療法の実際、看護上の注意	講義
8	終講試験	
評価	筆記試験	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

科目区分	専門基礎分野	履修学年	2 年後期	単位数	1	時間数	30
科目名	感染症と微生物			担当教員	守屋 修		
テキスト 他	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 4 微生物学 医学書院 疾病の成り立ちと回復の促進 3 臨床微生物・医動物 MC メディカ出版						
<u>到達目標</u> 1. 病原体の種類を知ることができる。 2. 病原体の感染経路が理解できる。 3. 病原体の感染経路に応じた感染予防対策が理解できる。 4. 病原体に感染したときの症状と治療法が理解できる。							

回数	学習内容	授業形態
1	微生物の種類（細菌、真菌、ウイルス） 細菌細胞に特有な構造物と機能	講義
2	細菌の培養条件 人体に強制している微生物群、その存在意義、病気との関係	講義
3	ウイルスの生物としての特性 プリオンの病気	講義
4	真菌の性質、特に細菌との違い 原虫の性質、感染症、寄生虫感染症	講義
5	微生物感染経路の多様性 生体の感染後の経過反応	講義
6	生体防御のしくみ(1) 自然免疫、獲得免疫、免疫細胞	講義
7	生体防御のしくみ(2) 液性免疫、細胞性免疫、免疫の病気（アレルギー）	講義
8	滅菌と消毒、感染性微生物の検査法	講義
9	感染性治療薬	講義
10	院内感染を防ぐ標準予防策 主な病原細胞（グラム陽性菌）	講義
11	主な病原細胞（グラム陰性菌）	講義
12	主な病原細胞（抗酸菌、嫌気性菌） 主なウイルス感染症（1）DNA ウイルス	講義
13	主なウイルス感染症（2）RNA ウイルス	講義
14	主なウイルス感染症（3）発がんに関係するウイルス	講義
15	終講試験と解説	
評価	筆記試験	
備考	事前課題・課題については直前シラバスで示します。	

科目区分	専門基礎分野	履修学年	1 年前期	単位数	1	時間数	30
科目名	病理学			担当教員	鹿 智恵		
テキスト	病理学 2024 年版 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進 1						
到達目標 1. 細胞傷害、先天異常、循環障害、炎症、腫瘍とはどのようなものを理解することができる。 2. 各臓器、疾病における病変の特徴を理解することができる。							

回数	学習内容	授業形態
1	病理学と医療 病因論：内因と外因	講義
2	病態学：細胞傷害と適応 遺伝性疾患	講義
3	炎症と損傷修復 免疫系疾患	講義
4	膠原病 感染症の病理	講義
5	循環障害の病理	講義
6	代謝障害の病理 腫瘍総論	講義
7	心臓の疾患 脈管の疾患	講義
8	造血器系の疾患	講義
9	呼吸器系の疾患 消化管の疾患	講義
10	肝胆膵の疾患	講義
11	泌尿器系の疾患 男性生殖器系の疾患	講義
12	女性生殖器系の疾患 内分泌系の疾患	講義
13	脳・神経系の疾患 運動器系の疾患	講義
14	感覚器系の疾患 眼・耳・皮膚の疾患	講義
15	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する	

科目区分	専門基礎分野	履修学年	1 年後期	単位数	1	時間数	15
科目名	臨床検査			担当教員	宮嶋 由佳		
テキスト	1) 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床検査						
<u>到達目標</u> 1. 診療における臨床検査の役割が理解できる。 2. 臨床検査の種類、意義、目的、データの解釈の方法を知ることができる。							

回数	学習内容	授業形態
1	概論	講義
2	呼吸機能検査	講義
3	画像検査 1.レントゲン	講義
4	2.CT、核医学検査	講義
5	3.MRI、内視鏡検査	講義
6	4.エコー検査	講義
7	心電図、まとめ	講義
8	終講試験	講義
評価	筆記試験	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する	

科目区分	専門基礎分野	履修学年	1 年前期	単位数	1	時間数	30
科目名	病態学Ⅰ			担当教員 (実務関連資格)	中野真実 (看護師)		
テキスト 他	1) 系統看護学講座 成人看護学【2】循環器 医学書院 2) 系統看護学講座 成人看護学【2】呼吸器 医学書院 1) メディカ出版 EX 疾患と看護 ①呼吸器 2) メディカ出版 EX 疾患と看護 ②循環器						
到達目標							
1. 循環器に疾病を持つ人のアセスメントに必要な疾病および治療に関する基礎的知識を理解できる。							
2. 呼吸器に疾病を持つ人のアセスメントに必要な疾病および治療に関する基礎的知識を理解できる。							

回数	学習内容	授業形態
1	導入 病態学全体の概要 病態学 I の概要	講義
2	冠動脈の制作	講義
3	心電図	講義
4	虚血性心疾患	講義
5	心臓弁膜症 心筋症	講義
6	大動脈瘤 大動脈解離	講義
7	心不全 心タンポナーデ	講義
8	血圧異常	講義
9	動脈の閉塞性疾患 静脈系疾患	講義
10	肺炎	講義
11	結核 肺腫瘍	講義
12	突発性肺線維症 自然気胸	講義
13	気管支喘息 気管支拡張症	講義
14	肺血栓塞栓症 COPD	講義
15	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験 提出物 演習中の態度	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

科目区分	専門基礎分野	履修学年	1 年後期	単位数	1	時間数	30
科目名	病態学Ⅱ			担当教員 (実務関連資格)	中野真実 (看護師)		
テキスト 他	1) 系統看護学講座 成人看護学【2】内分泌 2) 系統看護学講座 成人看護学【2】血液・造血器 3) 系統看護学講座 成人看護学【2】アレルギー・膠原病 4) 系統看護学講座 成人看護学【2】皮膚 1) メディカ出版 EX 疾患と看護 ④血液/アレルギー・膠原病/感染症 2) メディカ出版 EX 疾患と看護 ⑥眼/耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚 3) メディカ出版 EX 疾患と看護 ⑧腎・泌尿器/内分泌・代謝			医学書院 医学書院 医学書院 医学書院			

到達目標

1. 血液・造血器に疾病を持つ人のアセスメントに必要な疾病および治療に関する基礎的知識を理解できる。

2. 内分泌に疾病を持つ人のアセスメントに必要な疾病および治療に関する基礎的知識を理解できる。

3. 皮膚に疾病を持つ人のアセスメントに必要な疾病および治療に関する基礎的知識を理解できる。

4. 自己免疫の疾病を持つ人のアセスメントに必要な疾病および治療に関する基礎的知識を理解できる。

5. 日頃感じている身体の疑問についてグループで探求し、工夫を凝らし発表できる

回数	学習内容	授業形態
1	導入 病態学Ⅱ概要	講義
2	貧血	講義
3	白血病 悪性リンパ腫	講義
4	多発性骨髄腫 血友病	講義
5	アレルギー疾患	講義
6	SLE シェグレン症候群、ベーチェット病	講義
7	強皮症 皮膚筋炎	講義
8	糖尿病①	講義
9	糖尿病②	講義
10	バセドウ病	講義
11	クッシング症候群	講義
12	下垂体系疾患	講義
13	探求学習① グループワーク	講義・演習
14	探求学習② 発表	演習
15	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験 提出物 演習・発表中の態度	
備考		

科目区分	専門基礎分野	履修学年	1 年後期	単位数	1	時間数	30
科目名	病態学Ⅲ			担当教員 (実務関連資格)	中野真実 (看護師)		
テキスト	1) 系統看護学講座 成人看護学【2】運動器 医学書院 2) 系統看護学講座 成人看護学【2】脳・神経 医学書院 3) 系統看護学講座 成人看護学【2】眼 医学書院 1) メディカ出版 EX 疾患と看護 ⑤脳・神経 2) メディカ出版 EX 疾患と看護 ⑦運動器 3) メディカ出版 EX 疾患と看護 ⑥耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚						
到達目標							
1. 運動器に疾病を持つ人のアセスメントに必要な疾病および治療に関する基礎的知識を理解できる。							
2. 脳・神経に疾病を持つ人のアセスメントに必要な疾病および治療に関する基礎的知識を理解できる。							
3. 眼に疾病を持つ人のアセスメントに必要な疾病および治療に関する基礎的知識を理解できる。							
4. 耳鼻・咽喉に疾病を持つ人のアセスメントに必要な疾病および治療に関する基礎的知識を理解できる。							

回数	学習内容	授業形態
1	導入 病態学Ⅲの概要	講義
2	骨折	講義
3	脊髄損傷 末梢神経障害	講義
4	アキレス腱断裂 靱帯損傷	講義
5	関節リウマチ 腰部脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニア	講義
6	変形性股関節症 変形性膝関節症	講義
7	脳血管障害①	講義
8	脳腫瘍	講義
9	頭部外傷	講義
10	脳脊髄液の異常 脳炎・髄膜炎	講義
11	中耳炎 難聴	講義
12	鼻出血 副鼻腔炎、扁桃炎	講義
13	白内障 緑内障	講義
14	網膜剥離 黄斑疾患	講義
15	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験 提出物	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する	

科目区分	専門基礎分野	履修学年	1 年後期	単位数	1	時間数	30
科目名	病態学Ⅳ			担当教員 (実務関連資格)	中野真実 (看護師)		
テキスト 他	1) 系統看護学講座 成人看護学【2】 消化器 医学書院 2) 系統看護学講座 成人看護学【2】 腎・泌尿器 医学書院 1) メディカ出版 EX 疾患と看護 ③消化器 2) メディカ出版 EX 疾患と看護 ⑧腎・泌尿器/内分泌・代謝						
<u>到達目標</u> 1. 消化器に疾病を持つ人のアセスメントに必要な疾病および治療に関する基礎的知識を理解できる。 2. 腎・泌尿器に疾病を持つ人のアセスメントに必要な疾病および治療に関する基礎的知識を理解できる。 3. 病理解剖見学をし、知識を深めることができる。							

回数	学習内容	授業形態
1	導入 病態Ⅴ概要	講義
2	食道がん・胃がん・大腸がん	講義
3	腸閉塞症・イレウス 潰瘍性大腸炎・クローン病	講義
4	肝炎、肝硬変、門脈圧亢進症状、肝がん	講義
5	胆石症 膵炎・膵臓がん	講義
6	腎不全と AKI/CKD	講義
7	ネフローゼ症候群	講義
8	糸球体腎炎	講義
9	腎盂腎炎・水腎症	講義
11	前立腺肥大症 尿路結石症	講義
12	膀胱がん 前立腺がん	講義
12	病理解剖見学①	見学
13	病理解剖見学②	見学
14	まとめ	演習
15	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験 提出物 演習中・見学中の態度	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

科目区分	専門基礎分野	履修学年	2 年前期	単位数	1	時間数	30
科目名	病態学Ⅴ			担当教員 (実務関連資格)	中野真実 (看護師)		
テキスト 他	1) 系統看護学講座 専門分野 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 2 (9)女性生殖器 医学書院 3) 系統看護学講座 専門分野 精神看護学1 精神看護の基礎 医学書院 4) 系統看護学講座 専門分野 精神看護学2 精神看護の展開 医学書院 1) メディカ出版 EX 小児看護学① 小児の疾患と看護 2) メディカ出版 EX 疾患と看護⑨ 女性生殖器 3) メディカ出版 EX 精神看護学① 精神看護と看護の実践						
到達目標							
1. 小児看護のアセスメントに必要な疾病および治療に関する基礎的知識を理解できる。							
2. 母性看護のアセスメントに必要な疾病および治療に関する基礎的知識を理解できる。							
3. 精神看護のアセスメントに必要な疾病および治療に関する基礎的知識を理解できる。							

回数	学習内容	授業形態
1	小児に特徴的な疾患と治療	講義
2	感染症 ウイルス感染症、細菌感染症	講義
3	小児みられる呼吸器疾患	講義
4	小児にみられる運動器疾患	講義
5	小児にみられる消化器疾患 (1)	講義
6	小児にみられる消化器疾患 (2)	講義
7	子宮疾患	講義
8	卵巣疾患	講義
9	更年期	講義
10	性感染症	講義
11	統合失調症	講義
12	気分障害	講義
13	パーソナリティ障害	講義
14	強迫性障害	講義
15	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験 提出物	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する	

科目区分	専門基礎分野	履修学年	1 年後期	単位数	1	時間数	30
科目名	薬理学			担当教員	柳下 楠		
テキスト 他	1) 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 2) 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学						
<u>到達目標</u> 1. 薬物の体内での動態や効果について述べるができる。 2. 代表的な疾患とその治療薬について理解する。 3. 代表的な薬物と作用・副作用が述べられる。 4. 薬剤投与における看護職の役割について理解することができる。							

回数	学習内容	授業形態
1	薬理学概論(薬物とは何か、薬理学とは何か、薬力学、薬物動態学)	講義
2	薬物 1 治療の実際 看護師の役割について	講義
3	抗感染症薬・消毒薬	講義
4	がん治療薬	講義
5	生物学的製剤・免疫治療薬	講義
6	抗アレルギー薬・抗炎症薬	講義
7	自律神経に作用する薬剤 (1)	講義
8	自律神経に作用する薬剤 (2)	講義
9	中枢神経に作用する薬剤 (1)	講義
10	中枢神経に作用する薬剤 (2)	講義
11	心臓・血管作用薬 (1)	講義
12	心臓・血管作用薬 (2)	講義
13	糖尿病治療薬・高脂血症治療薬・ホルモン	講義
14	呼吸器・消化器薬	講義
15	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する	

科目区分	専門基礎分野	履修学年	2 年前期	単位数	1	時間数	15
科目名	医療と法律			担当教員	粕谷 泰雄		
テキスト	医学書院 専門基礎分野 看護関係法令 「専門基礎 健康支援と社会保障制度 4」						
<u>到達目標</u> 1. 医療,看護と法律との関連が理解できる。							

回数	学習内容	授業形態
1	医療職と法律	講義
2	医療法	講義
3	保健師助産師看護師法（1）	講義
4	保健師助産師看護師法（2）	講義
5	インフォームドコンセント	講義
6	看護記録と法	講義
7	守秘義務	講義
8	終講試験 まとめ	
評価	筆記試験 100%	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

科目区分	専門基礎分野	履修学年	2 年後期	単位数	1	時間数	15
科目名	関係法規			担当教員	粕谷 泰雄		
テキスト	医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令 健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令						
<u>到達目標</u> 1. 法に守られ法をまもるあり方を学ぶ。 2. 普遍的にサービスを受けられる現行制度のサービスを理解し、活用できるようにする。							

回数	学習内容	授業形態
1	基本となる法律 法 の概念	講義
2	看護法	講義
3	医療法	講義
4	保健衛生法	講義
5	社会保険法	講義
6	福祉法	講義
7	労働法と社会基盤整備, 環境法, 薬務法	講義
8	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験 100%	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

科目区分	専門基礎分野	履修学年	1 年後期	単位数	2	時間数	30
科目名	公衆衛生学			担当教員	宮嶋 由佳		
テキスト 他	1) 厚生指針 増刊 国民衛生の動向 2) 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 公衆衛生 3) MEDIC MEDIA 公衆衛生がみえる一般社団法人構成労働統計協会						
到達目標 1. 国民の健康に関する諸施策が理解できる。							

回数	学習内容	授業形態
1	公衆衛生概論、地域保健、国民医療費	講義
2	国際保健、医療法、社会保障	講義
3	統計① 人口静態統計	講義
4	統計② 人口動態統計	講義
5	統計③ 母子保健、その他	講義
6	健康増進対策	講義
7	高齢者保健	講義
8	学校保健、精神保健	講義
9	環境保健	講義
10	食中毒	講義
11	感染症	講義
12	産業保健（総論）	講義
13	産業保健（各論）	講義
14	まとめ	講義
15	終講試験 振り返り	
評価	筆記試験 100%	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

科目区分	専門基礎分野	履修学年	1 年後期	単位数	1	時間数	15
科目名	社会福祉			担当教員 (実務関連資格)	出口ゆかり (看護師・社会福祉士)		
テキスト	1) 医学書院 系統看護学講座 専門基礎 社会保障・社会福祉						
<到達目標> 1) 保健医療における社会福祉について学び、社会資源の活用の必要性を理解する。							

回数	学習内容	授業形態
1	社会福祉とは。社会福祉法と福祉 6 法 社会福祉の歴史	講義
2	公的扶助	講義
3	高齢者福祉	講義
4	介護保険制度	講義
5	障害者福祉	講義
6	児童家庭福祉	講義
7	社会福祉援助・医療看護との連携	講義
8	終講試験	
評価	筆記試験 100%	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

科目区分	専門基礎分野	履修学年	1 年後期	単位数	1	時間数	15
科目名	社会保障			担当教員	野溝 守		
テキスト	1) 系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③ 社会保障・社会福祉／医学書院 2) 厚生労働省 増刊 国民衛生の動向／一般社団法人構成労働統計協会						
<u>到達目標</u> 1. 医療保障制度を理解する。 2. 日本における医療保険の種類とその対象者、特徴を述べることができる。 3. 高齢者における医療保障制度を理解する。 4. 医療制度の動向と少子高齢化や非正規雇用者の増加などの社会的問題の関連について理解する。							

回数	学習内容	授業形態
1	現代社会の変化と地域包括ケアシステム	講義
2	社会保障制度	講義
3	社会保障の動向 医療保障制度 (1)	講義
4	医療保障制度 (2)	講義
5	介護保険制度 (1)	講義
6	介護保険制度 (2)	講義
7	所得保障	講義
8	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験 100%	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

シラバス (専門分野)

基礎看護学	看護学概論	老年看護学	老年看護概論保健
	看護倫理		老年看護方法Ⅰ
	看護の基本となる技術Ⅰ		老年看護方法Ⅱ
	看護の基本となる技術Ⅱ	小児看護学	小児看護概論保健
	生活を整える技術Ⅰ		小児看護方法Ⅰ
	生活を整える技術Ⅱ		小児看護方法Ⅱ
	生活を整える技術Ⅲ	基聖看護学	母性看護概論保健
	回復を促す技術Ⅰ		母性看護方法Ⅰ
	回復を促す技術Ⅱ		母性看護方法Ⅱ
	ヘルスアセスメント	精神看護学	精神看護概論保健
	看護過程		精神看護方法Ⅰ
	臨床看護総論Ⅰ		精神看護方法Ⅱ
	臨床看護総論Ⅱ	看護の統合と実践	医療安全
地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論		看護管理
	地域・在宅看護方法Ⅰ		災害看護・国際看護
	地域・在宅看護方法Ⅱ		看護研究
	地域・在宅看護方法Ⅲ		看護の統合Ⅰ
成人看護学	成人看護概論保健		看護の統合Ⅱ
	成人看護方法Ⅰ		
	成人看護方法Ⅱ		
	成人看護方法Ⅲ		
	成人看護方法Ⅳ		
	がん看護		

区分	基礎看護学	履修学年	1 年前期	単位数	1	時間数	30
科目名	看護学概論			担当教員	土澤るり		
病院で様々な健康水準にある患者とその家族への看護を経験したことを活かし、人間・環境・健康・看護とな何かを考える講義・演習を行う。また、看護提供のしくみ、多職種連携を知るために病院見学を行う。							
テキスト	1) 医学書院 基礎看護学[1] 看護学概論 2) 日本看護協会出版会 ヴァージニア・ヘンダーソン 看護の基本となるもの 3) 現代社 看護覚書 看護であること看護でないこと						
<u>到達目標</u> 1. 看護の本質について考え、看護の役割と機能を理解する。 2. 人間を統合した存在であり生活者であることを理解する。 3. 国民の健康状態と生活との関連について考える。 4. 看護実践における看護師の姿勢について考える。 5. 看護提供のしくみについて理解する。 6. 看護とは何か、看護師という職業について自己の考えをもつ。							

回数	学習内容	授業形態
1	看護とは 看護実践とその質保証に必要な要件	講義・演習
2	人間の「こころ」と「からだ」	講義・演習
3	生涯発達し続ける存在としての人間 人間の生活と役割	講義・演習
4	健康の概念 障害とは	講義
5	看護の変遷 職業としての看護	講義・演習
6	看護倫理 患者の権利と擁護	講義・演習
7	ケアとケアリング	講義・演習
8	看護の提供のしくみ 多職種連携	講義・演習
9	医療安全	講義・演習
10	医療の現場での心構え 看護学生のマナーを考える	演習
11	対象を取り巻く安全・安心な病院環境 多職種連携と看護師の役割	病院見学
12	看護活動の実際	演習
13	看護師の基本姿勢の理解 セルフケア	講義・演習
14	理想の看護師像	演習
15	試験・まとめ	
評価	筆記試験 80% 課題レポート 10% 授業シート 10%	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する	

区分	専門分野	履修学年	2 年前期	単位数	1	時間数	15
科目名	看護倫理			担当教員	小林由起子		
急性期・回復期の看護、精神科病院での勤務において、対象の安全を守ることと人権を守ることの狭間で対象にとってよりよい看護とは何かについて考え実践してきた。この経験を踏まえて、看護倫理に対する理解を深め、倫理的な視点を持って看護できる能力を持てるよう講義・演習を構築する。							
テキスト	1) 医学書院 別冊 看護倫理 2) 医学書院 基礎看護学[1] 看護学概論						
<u>到達目標</u> 1) 看護倫理について理解するための基本的知識、概念、理論について説明できる。 2) 自らが抱いた倫理的問題について、倫理的意思決定モデルを活用して分析し、対応について説明できる。 3) 事例検討を通して倫理的感受性を高め、よりよい看護について考えることができる。							

回数	学習内容	授業形態
1	看護倫理の歴史的変遷と看護倫理の必要性	講義
2	看護倫理の構成概念 1	講義
3	看護倫理の構成概念 2	講義
4	倫理的問題の分析方法	講義
5	事例を用いた倫理的問題の分析 1	演習
6	事例を用いた倫理的問題の分析 2	演習
7	看護者の倫理綱領	講義
8	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験 80% レポート 20%	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

科目区分	専門分野	履修学年	1 年前期	単位数	1	時間数	30
科目名	看護の基本となる技術Ⅰ			担当教員	小林由起子 中野真実 他		
病院において、看護の基本技術をもとに、優先度をふまえ対象に関わり看護実践をしてきた経験がある。実務経験を活かし、健康障害をもった患者と関わるために必要な基本的な考え方や看護技術について講義を行い、演習を通して、基本的な看護技術の指導を行っている。							
テキスト	1) 医学書院 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 2) 医学書院 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 1) メディックメディア 看護がみえる Vol 1. 基礎看護技術						
<u>到達目標</u> 1. 看護技術を学ぶにあたり、看護における看護技術とは何かについて説明できる。 2. 看護技術を学ぶにあたり、実習室使用の留意点、実習室の構造、ベッドの構造と機能について説明できる。 3. 看護技術を学ぶにあたり、衛生的な手洗いができる。 4. 看護におけるボディメカニクスについて説明できる。 5. 対象への身体ケアを通してもたらされる安楽-タッチング-について説明できる。 6. 看護において人間関係を成立・発展させるためのコミュニケーションについて説明できる。 7. 看護場面での効果的なコミュニケーションについて説明できる。 8. 対人関係を保つためのプロセスについて説明できる。							

回数	授業計画 学習内容	授業形態
1	看護技術とは何か 看護技術の特徴 看護技術を適切に実践するために大切なこと	講義
2	実習室使用について 1	講義・演習
3	実習室使用について 1	講義・演習
4	実習室使用について 2	講義・演習
5	実習室使用について 2	講義・演習
6	看護におけるボディメカニクス	講義・実技演習
7	看護におけるボディメカニクス	講義・実技演習
8	身体ケアを通してもたらされる安楽 -タッチング-	講義・演習
9	身体ケアを通してもたらされる安楽 -タッチング-	講義・演習
10	看護において人間関係を成立・発展させるためのコミュニケーション	講義
11	看護において人間関係を成立・発展させるためのコミュニケーション	講義
12	対人関係の振り返り プロセスレコード、ロールプレイ、リフレクション	講義
13	看護場面を想定したコミュニケーションの実際 プロセスレコード記載	演習
14	コミュニケーションの振り返り	演習
15	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験 70% レポート 30%	
備考	・実習室での演習では、演習後の振り返りレポートを提出する。 ・コミュニケーションの演習ではプロセスレコード、振り返りレポートを提出する。 ・関連科目：看護学概論，生活を整える技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，人間関係論，医療安全，自然科学（物理学） ・事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

科目区分	専門分野	履修学年	1 年前期・後期	単位数	1	時間数	30
科目名	看護の基本となる技術Ⅱ			担当教員	小林由起子		
病院において、看護の基本技術をもとに、患者の日常生活の援助を実践してきた。この経験をもとに、対象の安全・安楽・自立に配慮して根拠を考えながら日常生活の援助を実施できるよう学習を進める							
テキスト	2) 医学書院 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 3) 医学書院 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ						
<u>到達目標</u> 1) 生活を整える技術Ⅰ・Ⅱにおいて学習した知識と技術を活用し、対象の安全・安楽・自立に配慮して根拠に基づく日常生活援助が実施できる。 2) 対象と看護者との関係を考えつつ、対象の立場に立って行動することを学ぶ。 3) 看護実践のリフレクションを行い、自己の看護実践についての課題を明確にする。							

回数	学習内容	授業形態
1	対象に看護技術を適切に実践するために必要な考え方 事例に応じた日常生活援助（臥床患者のシーツ交換）	講義
2	臥床患者のシーツ交換 1	実技演習
3	臥床患者のシーツ交換 2	実技演習
4	臥床患者のシーツ交換 3	実技演習
5	臥床患者のシーツ交換 4	実技演習
6	看護技術の確認のための実技試験 臥床患者のシーツ交換	実技演習
7	看護技術の確認のための技術試験 臥床患者のシーツ交換	実技演習
8	事例に応じた日常生活援助（清潔援助）	講義
9	清潔援助 1	実技演習
10	清潔援助 2	実技演習
11	清潔援助 3	実技演習
12	清潔援助 4	実技演習
13	清潔援助 5	実技演習
14	看護技術の確認のための技術試験 清潔援助	実技演習
15	看護技術の確認のための技術試験 清潔援助	実技演習
評価	技術試験 70% レポート 30%	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する	

科目区分	専門分野	履修学年	1 年前期	単位数	1	時間数	30
科目名	生活を整える技術Ⅰ			担当教員	小林由起子 他		
病院において健康障害のある対象に対し、対象の個別性に合わせて日常生活を整える看護を実践してきた。実務経験を活かし、対象の自然治癒力を高め、健康を促進するために必要な日常生活行動の援助技術について、講義を行い、演習を通して援助技術を習得できるよう、指導を行って いる。							
テキスト	1) 医学書院 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 2) 医学書院 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ						
到達目標							
1. 安全で快適な療養生活の場になるよう、環境を整える意義を説明できる。 2. 安全で快適な療養生活の場を整えるためのベッドメイキングを実施できる。 3. 安全・安楽・自立を考慮し、臥床患者のシーツ交換を実施できる。 4. 活動・休息の援助の必要性を説明できる。 5. 安全・安楽・自立を考慮し、仰臥位、側臥位、セミファーラー位の体位保持の援助を実施できる。 6. 安全・安楽・自立を考慮し、移動の援助を実施できる。 7. 対象を尊重した態度で援助できる。							

回数	授業計画 学習内容	授業形態
1	環境の意義 病室の環境と病床の整備 病床環境のアセスメント	講義
2	病室の環境を知る。 病床環境を整える援助の必要性を考える	技術演習
3	ベッドメイキングの目的・方法・留意点	講義
4	ベッドメイキングの実施	技術演習
5	活動・運動の意義 体位の種類 体位変換の目的・方法・留意点 体位保持の目的・方法・留意点	講義
6	仰臥位から側臥位、仰臥位から長座位・端坐位および立位への体位変換、水平移動 仰臥位の良肢位	技術演習
7	臥床患者のシーツ交換の目的・方法・留意点	講義
8	臥床患者のシーツ交換の実施	技術演習
9	臥床患者のシーツ交換の実施	技術演習
10	臥床患者のシーツ交換の実施	技術演習
11	車椅子への移乗・移送の目的・方法・留意点 ストレッチャーへの移乗・移送の目的・方法・留意点	講義
12	車椅子への移乗・移送およびストレッチャーへの移乗・移送の実施	技術演習
13	臥床患者のシーツ交換の実施	技術演習
14	睡眠・休息の意義 生理的メカニズムとアセスメント 睡眠・休息を促す援助	講義
15	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験 80% レポート 20%	
備考	事前課題・課題については直前シラバスに提示する。	

科目区分	専門分野	履修学年	1 年後期	単位数	1	時間数	30
科目名	生活を整える技術Ⅱ			担当教員	小林由起子 本澤嘉奈子 他		
病院において、健康障害のある対象に、対象の個別性に合わせて日常生活を整える看護を実践してきた。この経験を活かし、対象の自然治癒力を高め、健康を促進するために必要な日常生活行動援助について講義を行い、演習を通して援助技術を習得できるよう指導を行う。							
テキスト	1) 医学書院 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 2) 医学書院 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ						
<u>到達目標</u> 1. 看護における衣生活、清潔への援助の意義と看護師の役割を説明できる。 2. 生活援助技術である衣生活と清潔への援助に関する原則を説明できる。 3. 衣生活と清潔の援助を、留意点をふまえ基本的な方法で実施できる。 4. 身体各部の清潔を保持するための基本的援助技術を習得できる。 5. 対象の反応を観察しながら、安全・安楽・自立に配慮して実施できる。 6. 対象を尊重した態度で援助が実施できる。							

回数	授業計画 学習内容	授業形態
1	看護における身体の清潔への援助の意義	講義
2	看護における衣生活の援助の意義 寝衣交換の目的・方法・留意点	講義
3	臥床患者の寝衣交換を安全・安楽・自立に配慮して実施する。	技術演習
4	全身清拭の目的・方法・留意点	講義
5	臥床患者の全身清拭を安全・安楽・自立に配慮して実施する。	技術演習
6	臥床患者の全身清拭を安全・安楽・自立に配慮して実施する。	技術演習
7	臥床患者の全身清拭を安全・安楽・自立に配慮して実施する。	講義
8	整容の目的・方法・留意点	講義
9	部分浴（手浴・足浴）の目的・方法・留意点	講義
10	足浴を安全・安楽・自立に配慮して実施する。	技術演習
11	足浴を安全・安楽・自立に配慮して実施する。	技術演習
12	足浴を安全・安楽・自立に配慮して実施する。	技術演習
13	洗髪の方法・留意点	講義
14	臥床患者の洗髪を安全・安楽・自立に配慮して実施する。	技術演習
15	終講試験 まとめ	
評価	筆記試験 80% レポート 20%	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

科目区分	専門分野	履修学年	1 年後期	単位数	1	時間数	30
科目名	生活を整える技術Ⅲ			担当教員	小林由起子 出口ゆかり 他		
病院において、健康障害のある対象に、その人の個別性に合わせて日常生活を整える看護を実践してきた。実務経験を活かし、食事の援助・排泄の援助について、対象の安全・安楽・自立に配慮し根拠に基づいて実施できるための講義・演習を行う。							
テキスト	1) 医学書院 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 2) 医学書院 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ						
<u>到達目標</u> 1. 看護における食事、排泄への援助の意義と看護師の役割を説明できる。 2. 生活援助技術である食事と排泄への援助に関する原則を説明できる。 3. 対象の反応を観察しながら、安全・安楽・自立に配慮して、食事、排泄への援助が実施できる。 4. 対象を尊重した態度で援助が実施できる。							

回数	授業計画 学習内容	授業形態
1	看護における食事と排泄の援助	講義
2	排泄の援助の目的・方法・留意点	講義
3	個人防護具の使用方法（プラスチックエプロン・手袋）	技術演習
4	尿器・便器による床上排泄の援助を安全・安楽・自立に配慮して実施する。	技術演習
5	陰部洗浄の目的・方法・留意点	講義
6	陰部洗浄を安全・安楽・自立に配慮して実施する。	技術演習
7	陰部洗浄を安全・安楽・自立に配慮して実施する。	技術演習
8	陰部洗浄を安全・安楽・自立に配慮して実施する。	技術演習
9	陰部洗浄を安全・安楽・自立に配慮して実施する。	技術演習
10	食事援助の目的・方法・留意点	講義
11	口腔ケアの目的・方法・留意点	講義
12	食事の援助、口腔ケアを安全・安楽・自立に配慮して実施する。	技術演習
13	食事の援助と排泄の援助に関する探究学習	演習
14	食事の援助と排泄の援助に関する探究学習	演習
15	終講試験 まとめ	
評価	筆記試験 80% レポート 20%	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

科目区分	専門分野	履修学年	1 年後期	単位数	1	時間数	30
科目名	回復を促す技術Ⅰ			担当教員	小林由起子、中野真実		
病院において、健康障害のある対象に医師の指示に基づき治療・処置の一部を実施してきた経験がある。この経験をもとに、科学的知識に基づいた安全・安楽・正確な基礎的技術が習得できるよう、講義・演習を構築する。							
テキスト 他	1) 医学書院 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 1) メディックメディア 看護が見える①基礎看護技術 2) メディックメディア 看護が見える②臨床看護技術						
<u>到達目標</u> 1. 薬物療法の基本的知識について理解できる。 2. 安全な薬物療法の援助について理解できる。 3. 各種与薬法について理解できる。 4. 注射法の基礎知識と方法について理解できる。 5. 輸血療法の基礎知識と方法について理解できる。 6. 創傷管理の基礎知識について理解できる。 7. 褥瘡・創傷処置・包帯法の援助方法について理解できる。							

回数	学習内容	授業形態
1	与薬とは、法的根拠、看護師の役割 与薬の基礎知識	講義
2	与薬法（経口与薬、吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬）	講義
3	注射の基礎知識（1）注射器、針、アンプル、バイアルの取り扱い	講義
4	注射の基礎知識（2）注射法の種類、準備、実施	講義
5	注射の基礎知識（3）皮下注射、皮内注射、筋肉内注射、静脈内注射	講義
	注射法の実際援助（1）皮下注射、皮内注射、筋肉内注射、静脈内注射	実技演習
7	注射法の実際援助（2）	実技演習
8	輸血の援助技術（安全な輸血の基礎知識 輸血の実際）	講義
9	皮膚・創傷を管理するための基礎知識（創傷の分類と治癒過程）	講義
10	創傷管理（1） 創傷処置（創洗浄と保護）包帯法	講義
11	創傷管理（2）	実技演習
12	褥瘡の基礎知識（発生のメカニズム、好発部位、発生要因と評価）	講義
13	褥瘡予防・管理の実際	講義 DVD
14	ストーマ造設者への援助（ストーマの基礎知識、装具の交換方法）	講義 DVD
15	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験 60% 事前課題 10% 事後課題 20%	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

科目区分	専門分野	履修学年	1 年後期	単位数	1	時間数	30
科目名	回復を促す技術Ⅱ			担当教員	野中久美子、本澤嘉奈子		
臨床で診療の補助業務を行ってきた経験を活かし、感染予防対策から検査・処置介助について技術演習を行い、知識や技術につなげる。病院および施設勤務において、救急、急性期、慢性期、終末期における看護を経験している。これらの臨床経験を踏まえ、療養上の世話と診療の補助を業とする看護の本質を理解し、科学的根拠と基本原則を踏まえた看護技術の学修を通して、看護の専門性に対する理解を深める。							
テキスト	1) 医学書院 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 2) 医学書院 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ						
<u>到達目標</u> 1. 感染防止の基礎知識について理解できる。 2. 標準予防策について理解できる。 3. 感染経路別予防策について理解できる。 4. 無菌操作の基礎知識について理解できる。 5. 手指衛生、ガウンテクニックの基本的援助方法について理解できる。 6. 滅菌・消毒洗浄処置の基礎的知識について学ぶ。 7. 治療・処置時の看護師の役割について理解できる。 8. 主な検査・処置時の援助について理解できる。							

回数	学習内容	授業形態
1	感染予防の基礎知識、感染症を成立させる要素と成立過程	講義
2	スタンダードプリコーション (1)	講義
3	スタンダードプリコーション (2) PPE	講義
4	PPE (手袋・ガウン・手指衛生) 着脱の実際	技術演習
5	感染経路別予防策	講義
6	感染性廃棄物の取り扱い、院内感染対策チーム	講義
7	消毒・滅菌・無菌操作の基本	講義
8	無菌操作のポイント	講義・実技演習
9	一時吸引	講義・実技演習
10	持続吸引	講義
11	検査、処置時の看護師の役割、基準値	講義
10	血糖検査、喀痰検査、便検査、穿刺法 (1)	講義
11	穿刺法 (2)	講義
13	穿刺法 (3)	講義
14	採血手技	実技演習
15	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験 100%	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する	

区分	専門分野	履修学年	1 年後期	単位数	1	時間数	30
科目	ヘルスアセスメント			担当教員	出口ゆかり		
内科・整形外科系病棟において様々な年齢層・疾患に対する看護を経験。 フィジカルアセスメントを通して患者の状態を把握し看護を実践してきた。 実務経験を活かし、対象の生命徴候を捉え、どのように観察・アセスメントし看護につなげるのかを講義と実技指導を行う。							
テキスト	1) 医学書院 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ						
<u>到達目標</u> 1. ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメントの目的・意義が理解できる。 2. 安全・安楽、そして確実にバイタルサインの測定ができる。							

回数	学習内容	授業形態
1	ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントについて	講義
2	フィジカルアセスメントに必要な技術 ①視診 ②触診 ③打診 ④聴診	講義
3	バイタルサインの観察とアセスメント (1) ①体温 ②脈拍 ③呼吸	講義
4	バイタルサイン測定の実際 体温測定・脈拍測定・呼吸測定	実技演習
5	バイタルサインの観察とアセスメント (2) ④血圧 ⑤意識	講義
6	バイタルサイン測定の実際 血圧測定	実技演習
7	バイタルサイン測定演習 (1) 体温～脈拍～呼吸～血圧測定	実技演習
8	バイタルサイン測定演習 (2) 体温～脈拍～呼吸～血圧測定	実技演習
9	呼吸器系のフィジカルアセスメント	講義
10	循環器系のフィジカルアセスメント	講義
11	乳房・腋窩・腹部のフィジカルアセスメント	講義
12	筋・骨のフィジカルアセスメント	講義
13	臥床患者のバイタルサイン測定演習 (1) 体温～脈拍～呼吸～腹部～血圧測定	実技演習
14	臥床患者のバイタルサイン測定演習 (2) 体温～脈拍～呼吸～腹部～血圧測定	実技演習
15	終講試験	
評価	筆記試験 演習 (参加状況、演習後課題)	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する	

科目区分	専門分野	履修学年	1 年後期	単位数	1	時間数	30
科目名	看護過程			担当教員	土澤るり		
病院で様々な健康レベルにある患者とその家族に看護実践を行った経験を活かし、事例を用いてイメージを図り、看護過程のしくみを学ぶための講義・演習を行う。							
使用 テキスト	1) 照林社 ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 よくわかる機能的健康パターン 2) 医学書院 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 3) 医学書院 看護診断ハンドブック 4) 看護がみえる vol.4 看護過程の展開 5) 看護がみえる vol.5 対象の理解 I						
<u>到達目標</u> 1. 看護過程の構成要素とその関係性を理解する。 2. 問題解決思考をもちいて、事例に対して看護過程の一連を展開する。 3. クリティカルに考える姿勢をつくる。 4. 実践を省察する姿勢をつくる。 5. 看護師としての倫理観に基づいて判断する姿勢をつくる。 6. 看護記録について理解できる。							

回数	学習内容	授業形態
1	看護過程とは	講義・演習
2	看護過程を展開する際に基盤となる考え方 問題解決思考、クリティカルシンキング、リフレクション、倫理的配慮	講義・演習
3	看護過程の各段階 (1) アセスメント 看護問題の明確化	講義・演習
4	看護過程の各段階 (2) 看護計画	講義・演習
5	看護過程の各段階 (3) 実施・評価	講義・演習
6	看護記録	講義・演習
7	事例紹介 データベース	講義・演習
8	アセスメント (1)	講義・演習
9	アセスメント (2)	演習
10	アセスメント (3)	演習
11	全体像 看護問題の抽出	講義・演習
12	看護計画 (1)	講義・演習
13	看護計画 (2)	演習
14	実施・評価	講義・演習
15	試験 まとめ	
評価	筆記試験 50% 成果物 50%	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する	

区分	専門分野	履修学年	2 年前期	単位数	1	時間数	15
科目名	臨床看護総論 I			担当教員	小林由起子		
病院において、急性期・回復期および精神障害者への健康回復への看護を経験してきた。この経験を活かし、看護上重要である症状について、症状の原因や解剖生理の知識を踏まえてのメカニズムについて学習し、必要な看護について理解できるよう講義・演習を行う。							
テキスト	医学書院 基礎看護学[4] 臨床看護総論						
<u>到達目標</u> 1. 看護上重要である症状の原因やメカニズムを理解する。 2. 看護上重要である症状に対する基本的な看護を理解する。							

回数	学習内容	授業形態
1	健康状態の経過に共通する特徴的な状態と人々のニーズ	講義
2	呼吸に関連する症状を示す対象者への看護	講義・演習
3	循環に関連する症状を示す対象者への看護	講義・演習
4	栄養や代謝に関連する症状を示す対象者への看護	講義・演習
5	排泄に関連する症状を示す対象者への看護	講義・演習
6	集中治療を受ける対象者への看護 1	講義
7	集中治療を受ける対象者への看護 2	講義
8	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験 50% レポート 50%	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

科目区分	専門分野	履修学年	2 年前期	単位数	1	時間数	15
科目名	臨床看護総論Ⅱ			担当教員	本澤嘉奈子		
病院および施設勤務において、救急、急性期、慢性期、終末期における看護を経験している。これらの臨床経験を踏まえ、臨床看護の全体を総括した総論と対象者となる人々を理解し、臨床における看護実践の展開をより明確にとらえられるよう、看護学を基盤とした根拠に基づいた看護実践に対する理解を深める。							
テキスト	1) 医学書院 基礎看護学[4] 臨床看護総論 2) 医学書院 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 3) 看護がみえる vol.5 対象の理解Ⅰ						
<u>到達目標</u> 1. 急激に健康が破綻した人の特徴と看護を理解する。 2. リハビリテーションが必要な人への看護を理解する。 3. 生涯にわたり自己コントロールが必要な人への看護を理解する。 4. 終焉を迎える人とその家族への看護を理解する。 5. 看護者としての姿勢について考える。							

回数	学習内容	授業形態
1	健康状態と看護	講義・演習
2	急激に健康が破綻した人の特徴と看護	講義・演習
3	リハビリテーションが必要な人への看護	講義・演習
4	障害受容と看護	講義・演習
5	生涯にわたり自己コントロールを必要とする人への看護	講義・演習
6	セルフケアを獲得する人への学習支援	講義・演習
7	終焉を迎える人とその家族への看護	講義・演習
8	試験 まとめ	
評価	筆記試験 グループワーク参加状況 レポート	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示するかすみ	

科目区分	専門分野	履修学年	1 年後期	単位数	2	時間数	30
科目名	地域・在宅看護概論			担当教員	熊澤章司郎		
訪問看護等において、地域で生活する療養者や家族への直接支援および多職種連携を実践してきた実務経験を有する。その経験に基づき、在宅看護を取り巻く社会背景や理念、看護職の役割について具体的な事例を交えて講義する。さらに、訪問看護制度や保健・医療・福祉制度の実際と社会資源の活用方法を理解し、地域・在宅看護の特性と位置づけを自覚できる講義を展開する。							
使用 テキスト	1) 医学書院 専門分野 基礎 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の基盤 2) 医学書院 専門分野 基礎 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の実際 3) 厚生労働統計協会 図説 国民衛生の動向 一般社団法人						
到達目標							
1. 地域・在宅看護を取り巻く社会背景を基に、在宅看護の理念と目標が理解できる。							
2. 地域・在宅看護の実際を踏まえて、地域・在宅看護の位置づけ・特徴が理解できる。							
3. 地域・在宅看護での療養者、家族の支援の在り方を理解し、地域・在宅看護を実践する看護職の役割が理解できる。							
4. 地域や在宅で療養する人々を支える社会資源の種類や関連する保健・医療・福祉制度及び訪問看護制度について理解できる。							

回数	学習内容	授業形態
1	人々の暮らしの理解 暮らしと地域	講義・演習
2	学校のある地域を理解しよう (1)	講義・演習
3	学校のある地域を理解しよう (2)	演習
4	学校のある地域を理解しよう (3)	講義・演習
5	学校のある地域を理解しよう (4)	講義・演習
6	我が国における家族の現状 我が国における家族とその変遷	講義
7	暮らしの環境を整える看護 広がる看護の対象と提供方法 地域における家族への看護	講義
8	おもな地域・在宅看護実践の場	講義・演習
9	地域・在宅看護の役割 地域包括ケアシステムと地域共生社会	講義
10	地域・在宅看護の対象としての家族 地域におけるライフステージに応じた看護	講義
11	地域での暮らしにおける災害対策 地域・在宅看護における多職種連携	講義・演習
12	第介護保険・医療保険制度 地域・在宅看護にかかわる医療提供体制	講義
13	高齢者・障害者・難病等に関する法制度	講義
14	暮らしを支える福祉用具の実際	演習 (施設見学)
15	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験、レポート、小テスト	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する	

区分	専門分野	履修学年	2 年後期	単位数	1	時間数	45
科目名	地域・在宅看護方法Ⅰ			担当教員	熊澤章司郎		
在宅看護の現場において、生活環境に応じた看護技術の提供や福祉機器の導入、在宅特有のリスクマネジメント（事故防止・感染対策等）を実践してきた経験を有する。その実務経験を活用し、地域・在宅療養者の生活の質（QOL）向上を目指した基本的な援助技術や福祉機器の選定・活用法、安全管理の実際について、講義や演習を通して指導を行う。							
使用テキスト	1) 医学書院 専門分野 基礎 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の基盤 2) 医学書院 専門分野 基礎 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の実際 3) メディックメディア 写真でわかる訪問看護アドバンス						
到達目標 1. 地域・在宅看護を展開するために必要な基本的な援助技術を理解できる。 2. 地域・在宅療養の特性を踏まえ、対象の生活の質の向上を目標とした援助方法を理解出る。 3. 地域や在宅で療養する対象にとって必要な福祉機器の実際を知る。 4. 在宅におけるリスクマネジメントについて理解できる。							

回数	学習内容	授業形態
1	在宅看護の心構え、対話・コミュニケーション技法①	講義
2	対話・コミュニケーション技法②、家族への看護	講義
3	リスクマネジメント	講義
4	環境調整	講義
5	活動・休息①	講義
6	活動・休息②	講義・実技演習
7	食生活・嚥下	講義
8	排泄①	講義
9	排泄②	講義・実技演習
10	清潔・衣生活①	講義
11	清潔・衣生活②	実技演習
12	清潔・衣生活③	実技演習
13	清潔・衣生活④ まとめ	講義・GW
14	清潔・衣生活⑤ まとめ	講義・GW
15	苦痛緩和、安楽確保	講義
16	呼吸・循環①	講義
17	呼吸・循環②	講義・実技演習
18	創傷管理	講義
19	与薬	講義
20	フィジカルアセスメント①	講義
21	フィジカルアセスメント②	講義
22	まとめ	講義
23	終講試験	
評価	筆記試験、演習評価、課題(レポート)	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

区分	専門分野	履修学年	2 年前期	単位数	1	時間数	30
科目名	地域・在宅看護方法Ⅱ			担当教員	熊澤章司郎		
地域で療養生活を送る多様な対象への訪問看護を実践していた。その実務経験を活かし、疾患や障害を持ちながらも『生活者』として地域で暮らす人々を支える継続的支援の重要性や、地域支援活動の実際を学ぶ。さらに、療養者の生活環境や社会制度を考慮し、地域・在宅看護を適切に検討できる能力を養うための講義・演習を行う。							
使用 テキスト	1) 医学書院 専門分野 基礎 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の基盤 2) 医学書院 専門分野 基礎 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の実際						
<u>到達目標</u> 1. 地域や在宅で療養する対象の疾患や障害、環境に合わせた看護を理解できる。 2. 地域や在宅で療養する対象にとって必要な制度の実際を知る。 3. 地域・在宅看護を必要とする対象の特性を考慮した看護の検討方法を理解できる。							

回数	学習内容	授業形態
1	時期別の看護①	講義
2	時期別の看護②	講義
3	地域共生社会における多職種連携多職種チームでの協働	講義
4	精神障害を持ちながら生活する人への在宅看護	講義
5	活動低下及び疾病再発予防	講義
6	医療的ケアが必要な子供と家族への支援	講義
7	難病の在宅療養者への支援	講義
8	がんを患い人生の終末を迎える人の在宅看護①	講義
9	がんを患い人生の終末を迎える人の在宅看護②	講義
10	地域支援活動①	講義・演習
11	地域支援活動②	講義・演習
12	地域支援活動③	講義・演習
13	地域支援活動④	講義・演習
14	地域支援活動⑤	講義・演習
15	終講試験	
評価	筆記試験、レポート	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

区分	専門分野	履修学年	2 年後期	単位数	2	時間数	30
科目名	地域・在宅看護方法Ⅲ			担当教員	熊澤章司郎		
訪問看護の実践において、多様な疾患・障害を持つ療養者とその家族に対するアセスメント、家族支援、エンパワメントアプローチを行ってきた経験を有する。その実務経験を踏まえ、事例展開を通して生活環境や価値観、家族介護力を統合的にアセスメントする視点を養う。家族を一単位と捉えた看護計画の立案や、対象者の自己決定を支える指導方法について講義・演習を行う。							
使用 テキスト	1) 医学書院 専門分野 基礎 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の基盤 2) 医学書院 専門分野 基礎 地域・在宅看護論 地域・在宅看護の実際						
<u>到達目標</u> 1. 地域や在宅で療養する対象の疾患や障害に合わせた、その人らしく暮らし、QOL を維持向上させていく看護について理解できる。 2. 地域・在宅看護を必要とする対象の特性を考慮した看護の検討方法を理解できる。 3. 事例展開を通して、在宅療養者および家族の生活環境、価値観や意向、家族介護力や社会資源活用などアセスメントの視点を理解できる。 4. 家族を一単位として捉え、強みの強化、弱みに対する看護計画の立案ができる。 5. エンパワメントアプローチを用いて、対象の自己決定を促す指導ができる。							

回数	学習内容	授業形態
1	地域在宅における看護過程、ICF とは/RLI モデルとは 事例①提示(紙上事例紹介)	講義・演習
2	「療養者情報」を ICF 分類で整理・協議	講義・演習
3	生活行動別アセスメントの整理・協議①	講義・演習
4	生活行動別アセスメントの整理・協議②	講義・演習
5	生活行動別アセスメントの整理・協議③	講義・演習
6	全体像(相関図)の整理・協議	講義・演習
7	アセスメントの統合の整理・協議 看護問題の抽出と優先度の整理・協議	講義・演習
8	看護計画の立案・協議 事例②提示(紙上事例②紹介)	講義・演習
9	療養者情報の整理、アセスメント	演習
10	アセスメントの統合	演習
11	全体像(相関図)作成	演習
12	看護問題・優先度決定 看護計画の立案	演習
13	発表資料の作成	演習
14	事例発表①	演習
15	事例発表② まとめ	演習
評価	課題(レポート)70%、参加状況(評価表)30%	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

区分	専門分野	履修学年	1 年後期	単位数	1	時間数	30
科目名	成人看護概論保健			担当教員	菅谷 梨香		
急性期、慢性期、終末期病棟で成人期から老年期の対象者の看護を実践してきた経験を活かし、成人各期の特徴や現代の健康課題について、事例を用いて理論と実践を結びつけながら理解を深める講義を行う。また、アンドラゴジーの視点を踏まえ、対象者の主体性やこれまでの経験を尊重し支援する看護について講義を行う。							
テキスト	1) 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論						
<u>到達目標</u> 1. 成人の身体的、心理的、社会的、霊的な特徴を述べることができる。 2. 成人の健康づくりに必要な概念や理論を知り、それらを活用した看護を考えることができる。 3. 経過別看護の特徴を事例を通して理解し、看護を考える事ができる。							

回数	授業計画 学習内容	授業形態
1	大人とは何か 成人の生きてきた時代背景	講義
2	成人の発達段階・発達課題	講義
3	成人の生活と健康	講義
4	成人の学習 行動変容を促進するアプローチ ヘルスプロモーション	講義
5	健康を脅かす要因と看護	講義
6	危機理論	講義
7	健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護	講義
8	慢性病を持つ患者の特徴 病みの軌跡	講義
9	セルフケアおよびセルフマネジメントへの支援	講義
10	障害がある人の障害の認識過程	講義
11	全人的苦痛（トータルペイン） 死とともに生きること	講義
12	意思決定支援と看護師の役割 アドバンスケアプランニング	講義
13	新たな治療法、先端医療と看護	講義
14	成人を4側面からみるということ	講義
15	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験	
備考	事前課題・課題は直前シラバスで提示する。	

区分	専門分野	履修学年	2 年前期	単位数	1	時間数	30
科目名	成人看護方法 I			担当教員	中野 真実		
救急外来で生命の危機状態にある人の看護経験を活かし、急激に状態が変化する人の小事例を用いて学習する。変化する状態の先を予測できるよう病態生理の知識を活かす講義を行う。							
テキスト	1) 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 2 呼吸器 2) 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 3 循環器 3) 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 7 脳・神経						
<u>到達目標</u> 1. 呼吸・循環機能障害による生命の危機状態にある人に対して、健康危機状態から回復を促す看護に必要な基礎知識・技術・態度を理解する。 2. 中枢神経障害による意識障害のある人への健康危機状態から回復を促す看護に必要な基礎知識・技術・態度を理解する。 3. 生命の危機状態にある人とその家族の精神的支援について考える。							

回数	学習内容	授業形態
1	クリティカルな看護の特性	講義
2	クリティカルケアを必要とする患者・家族	講義
3	クリティカルケア看護の実践	講義
4	呼吸機能障害による急性症状のある人のアセスメント	演習
5	呼吸器を装着している人の看護	講義
6	呼吸機能障害により治療を受ける人への看護（1）	演習
7	呼吸機能障害により治療を受ける人への看護（2）	講義
8	循環機能障害のある人のアセスメントの視点	演習
9	冠状動脈インターベーションを受ける人の看護	講義
10	心臓リハビリテーションを受けている人の看護	講義・演習
11	循環機能障害のある対象の生活指導	演習
12	重症不整脈の早期発見と援助	演習
13	意識のアセスメントと異常の早期発見	講義・演習
14	頭蓋内圧亢進のある対象の看護	講義
15	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験 100%	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

科目区分	専門分野	履修学年	2 年前期	単位数	1	時間数	30
科目名	成人看護方法Ⅱ			担当教員	土澤るり		
病院で運動機能障害を持つ患者の看護を行った経験を活かした小事例を用い、イメージ化を図りながら障害をもって生活を再構築する人の身になった支援を考える。							
テキスト	1) 医学書院 系統看護学講座 運動器 2) 医学書院 系統看護学講座 脳・神経						
到達目標							
1. 運動機能障害による機能障害で生活障害が生じた人に対して生活の再構築を支える看護に必要な基礎知識・技術。態度を理解する。							
2. 中枢・抹消神経障害による機能障害で生活障害が生じた人に対して、生活の再構築を支える看護に必要な基礎知識・技術・態度を理解する。							
3. 生活の再構築を余儀なくされる人の障害受容について考える。							

回数	学習内容	授業形態
1	障害がある人とリハビリテーション	講義
2	中枢神経障害とアセスメントの視点	演習
3	末梢神経障害とアセスメントの視点	演習
4	筋の障害とアセスメントの視点	演習
5	骨折した人のアセスメントの視点	演習
6	ギプス固定・牽引中の看護	講義
7	高次脳機能のアセスメントの視点	講義
8	高次脳機能障害がある人の生活障害と起こりうる危険 注意機能障害、記憶障害のある人への生活支援	講義
9	高次脳機能障害がある人の心理・社会的苦痛 遂行機能障害、社会的行動障害のある人への生活支援	講義・演習
10	高次脳機能障害がある人の社会復帰への支援 家族への支援	講義・演習
11	脊髄損傷レベルと生活障害	講義
12	脊髄損傷レベルに応じた生活支援	講義・演習
13	関節リウマチによる関節症状のある人のアセスメントの視点	講義
14	関節リウマチによる関節症状のある人の日常生活援助	講義
15	終講試験 まとめ	
評価	筆記試験 80% ワークシート 20%	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

区分	専門分野	履修学年	2 年前期	単位数	1	時間数	30
科目名	成人看護方法Ⅲ			担当教員	土澤るり		
病院で健康状態に合わせて生活をセルフマネジメントする人への看護を活かした事例を用いて、対象の生活スタイルに合わせたセルフマネジメント、状態の把握と予期、対応について考えながら学ぶ授業を行う。							
テキスト	1) 医学書院 系統看護学講座 消化器 2) 医学書院 系統看護学講座 腎・泌尿器 3) 医学書院 系統看護学講座 内分泌						
<u>到達目標</u> 1. 内部環境の調節を必要とする人に対して、セルフマネジメントを支える看護に必要な基礎知識・技術・態度を理解する。 2. 代謝の調節を必要とする人に対して、セルフマネジメントを支える看護に必要な基礎知識・技術・態度を理解する。 3. 生活の調整を余儀なくされた人へのエンパワーメントアプローチについて考える。							

回数	学習内容	授業形態
1	慢性病とともに生きる人を支える看護とは 健康行動理論を活用したアセスメント	講義
2	肝硬変で治療を受ける人のアセスメントの視点 (検査データの意味・重症度の判断)	講義
3	肝硬変による症状緩和の看護 (症状の成り立ちを踏まえた症状緩和)	講義
4	肝性脳症の予防と早期発見 食道静脈瘤破裂の予防と早期発見	講義
5	糖代謝異常のある人のアセスメントの視点 (1)	講義
6	糖代謝異常のある人のアセスメントの視点 (2)	講義・演習
7	糖代謝異常のある人のセルフマネジメント	講義・演習
8	インスリン導入期にある人への教育的関わり (1)	講義・演習
9	インスリン導入期にある人への教育的関わり (2)	演習
10	インスリン導入期にある人への教育的関わり (3)	演習
11	腎機能のアセスメントの視点	講義・演習
12	透析導入期にある人の生活障害と起こりうる危険	講義・演習
13	透析導入期にある人への教育的関わり	講義・演習
14	透析維持期から逸脱しそうな人への教育的関わり	講義・演習
15	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験 80% ワークシート 20%	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

区分	専門分野	履修学年	2 年後期	単位数	1	時間数	30
科目名	成人看護方法Ⅳ			担当教員	菅谷梨香		
急性期病棟でおもにがんの手術を受ける成人期から老年期の患者の看護を経験。周手術期にある患者の事例を用いて合併症の予防と早期回復の支援、退院後の生活を考慮した支援について学ぶ授業を行う。							
テキスト 他	1) 医学書院 系統看護学講座 臨床外科総論 2) 医学書院 系統看護学講座 臨床外科各論 3) 医学書院 系統看護学講座 成人看護学総論						
<u>到達目標</u> 1. 麻酔、手術による生体の反応を理解し、術後のリスクについてアセスメントできる。 2. 全体像から問題点を抽出し、患者の個別性を考えた計画を立案することができる。 3. 成人の学習の特徴をふまえ、指導を考えることができる。 4. 患者の反応をとらえ、SOAP の記載と計画の追加・修正ができる。							

回数	学習内容	授業形態
1	手術を受ける患者に必要な情報の収集方法 事例の疾患の手術を受ける患者の看護	講義
2	事例紹介、データベース記載	講義・演習
3	術後患者のアセスメントの視点 (1)	講義・演習
4	術後患者のアセスメントの視点 (2)	講義・演習
5	術後患者のアセスメントの視点 (3)	講義・演習
6	術後患者のアセスメントの視点 (4)	講義・演習
7	患者の状態に応じた術後合併症の推測 術後患者の全体像 (1)	講義・演習
8	術後患者の全体像 (2) 術後患者の看護問題の明確化	講義・演習
9	術後合併症を予防し回復を促す看護 看護計画立案 (1)	演習
10	術後合併症を予防し回復を促す看護 看護計画立案 (2)	演習
11	看護計画の実施(ロールプレイ) SOAP の記載	演習
12	退院後の生活と退院指導 (1)	講義・演習
13	退院後の生活と退院指導 (2)	講義・演習
14	周術期における患者の看護	講義
15	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験 看護過程	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

区分	専門分野	履修学年	2 年後期	単位数	1	時間数	15
科目名	がん看護			担当教員	菅谷 梨香・村上 由美子		
急性期・慢性期・緩和ケア病棟で手術療法・化学療法・放射線療法・緩和ケアを受ける対象者への看護を実践してきた経験がある。がんの診断時から求められる、早期からの緩和ケアや症状マネジメントについて、事例を用いながら実践的な内容を取り上げる。トータルペインの視点から患者を理解し、がん患者を取り巻く倫理的課題についても考察することのできる講義を展開する。							
テキスト	1) 医学書院 系統看護学講座 別館 がん看護 2) 医学書院 系統看護学講座 別館 緩和ケア						
<u>到達目標</u> 1. がんによる症状と治療に伴う症状を理解することができる。 2. 症状緩和技術を理解することができる。 3. トータルペインの視点から患者を理解することができる。							

回数	学習内容	授業形態
1	がんとは何か 早期からの緩和ケア	講義
2	がんのおもな治療法と看護(手術療法・放射線療法と看護)	講義
3	がんのおもな治療法と看護(化学療法と看護)	講義 (がん看護専門看護師)
4	がんの治療と倫理的な課題	講義 (がん看護専門看護師)
5	がん患者の身体的特徴 癌性疼痛の緩和法	講義
6	消化器症状の緩和法 呼吸器症状の緩和法	講義
7	精神症状の看護鎮静と倫理的課題	講義
8	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験	
備考	事前課題・課題は直前シラバスで提示する。	

専門分野	老年看護学	履修学年	1 年後期	単位数	2	時間数	30
科目名	老年看護概論保健			担当教員		出口ゆかり	
内科病棟にて急性期から終末期まで、高齢者やその家族への看護を経験し、また社会福祉士として社会資源の調整や退院支援を行ってきた。その経験を活かして、超高齢社会における様々な課題、高齢者を支える法や制度、老年看護学の役割と特徴を学べるよう講義・演習を行う。							
テキスト	1) 医学書院 系統看護学講座 老年看護学 2) 医学書院 系統看護学講座 老年看護 病態・疾病論 3) 一般財団法人厚生労働統計協会 厚生指標国民衛生の動向						
<u>到達目標</u> 1. 日本の高齢者の統計的特徴と変遷が理解できる。 2. 加齢による身体心理社会面の変化と生活への影響が理解できる。 3. 介護保険と介護保険施設の特徴が理解できる。 4. 高齢者の健康状態のアセスメントが理解できる。 5. 高齢者のヘルスプロモーションについて考えを述べることができる。							

回数	学習内容	授業形態
1	「老いる」ということ	講義・演習
2	老年期の発達課題 加齢と健康	講義
3	超高齢社会の現状と課題、高齢者の暮らし	講義
4	医療保健福祉に基づく制度 地域包括ケアシステムの役割	講義
5	介護保険制度について	講義・演習
6	高齢者差別・高齢者虐待 安全確保と身体拘束の倫理的課題	講義
7	高齢者の権利擁護 成年後見制度と日常生活自立支援事業	講義
8	老年看護学の発展と定義、老年看護の役割と特徴	講義
9	エンパワーメント・ストレングスモデル等 国際生活機能分類（ICF）とサクセスフルエイジング	講義
10	エンドオブライフケア	講義
11	地域における高齢者への看護	講義
12	高齢者を含む家族の看護	講義
13	災害に伴う高齢者の看護	講義
14	認知症の人と家族の理解 認知症サポーターの役割	講義（認知症サポーター講習会）
15	終講試験、解説	講義
評価	筆記試験、講習会参加状況、レポート提出	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

区分	専門分野	履修学年	2 年後期	単位数	1	時間数	30
科目名	老年看護方法 I			担当教員	土澤るり		
病院で高齢者への日常生活の援助や症状による苦痛の緩和、退院支援の経験を活かし、事例を用いてイメージ化を図りながら講義を行う。また、事例の信条や生活背景に応じた個別的な援助を考えて演習を行う。							
テキスト 他	1) 医学書院 系統看護学講座 老年看護学 2) 医学書院 系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論						
<u>到達目標</u> 1) 認知症、せん妄のある高齢者と家族への支援を理解する。 2) 加齢に伴う生活上の変化を捉え、より健康的な生活のためのセルフケア支援を考える。 3) 高齢者の価値や信条を尊重する姿勢について考える。							

回数	授業計画 学習内容	授業形態
1	老人保健施設に入所している高齢者への自立支援	講義
2	脳卒中で生活障害がある高齢者のアセスメントの視点	講義・演習
3	パーキンソン病で生活障害がある高齢者のアセスメントの視点	講義
4	高齢者の歩行・移動のアセスメントの視点	講義・演習
5	高齢者の歩行・移動のアセスメントと看護 (1)	演習
6	高齢者の歩行・移動のアセスメントと看護 (2)	実技演習
7	高齢者の食生活・排泄のアセスメントの視点	演習
8	高齢者の食生活・排泄のアセスメントと看護 (2)	実技演習
9	高齢者の清潔・衣生活のアセスメントと看護 (1)	演習
10	高齢者の生活リズムのアセスメントと看護	実技演習
11	高齢者の生活リズムのアセスメントと看護	演習
12	高齢者の生活リズムのアセスメントと看護	講義・演習
13	せん妄の予防とせん妄状態にある高齢者の看護	講義・演習
14	認知症の人とのコミュニケーションと環境整備	講義・演習
15	終講試験 まとめ	
評価	筆記試験 80% 課題シート 20%	
備考	事前課題と課題は、直前シラバスに提示する。	

区分	専門分野	履修学年	2 年後期	単位数	1	時間数	30
科目名	老年看護方法Ⅱ			担当教員	土澤るり		
病院で多病状態にある高齢者の強みを活かして、健康状態に応じた生活拡大への援助を行った経験を活かし、高齢患者の健康課題の抽出、看護計画の立案、臨床判断を学ぶ講義・演習を行う。							
テキスト	1) 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 3) 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院						
<u>到達目標</u> 1. 多病状態にある高齢者の健康および生活上の問題を明らかにする。 2. 事例の健康課題や日常生活上の問題を最小化し、可能性の最大化を図り、対象とその家族が望む生活が実現できる支援について考える。 3. 高齢者のニーズに寄り添う姿勢を学ぶ。							

回数	学習内容	授業形態
1	高齢者の特性をいかした看護過程の考え方	講義
2	大腿部頸部骨折で手術療法を受ける高齢者のアセスメントの視点	講義・演習
3	大腿部頸部骨折で手術療法を受ける高齢者への看護（1）	講義・演習
4	大腿部頸部骨折で手術療法を受ける高齢者への看護（2）	講義・演習
5	慢性心不全で薬物療法を受ける高齢者の看護	講義・演習
6	多病状態にある高齢者のアセスメント（1）	演習
7	多病状態にある高齢者のアセスメント（2）	演習
8	多病状態にある高齢者の全体像 加齢による変化と病気による生活障害をみる	演習
9	目標志向型思考への転換 看護上の問題の明確化（1）	演習
10	看護上の問題の明確化（2）	演習
11	心不全を繰り返す高齢者のその人らしい生活の再構築（1） 看護計画の立案	演習
12	心不全を繰り返す高齢者のその人らしい生活の再構築（2） 看護計画の実施・評価	演習
13	高齢者の生活と看護	講義
14	エンドオブライフケア	講義
15	終講試験 まとめ	
評価	筆記試験 50% 事例展開 50%	
備考	事前課題と課題は、直前シラバスで提示する。	

区分	専門分野	履修学年	2 年前期	単位数	2	時間数	30
科目名	小児看護概論保健			担当教員	野中久美子		
小児科での実務経験を活かし、小児看護の特徴や成長発達など、小児を看護するうえで必要となる基本的知識が学べるように講義する。							
テキスト	1) 医学書院 系統看護学講座 小児看護学 1 小児看護学概論 小児臨床看護総論						
<u>到達目標</u> 1. 小児看護の対象、特徴や小児看護の役割を学ぶ。 2. 子どもの権利、小児看護を行うにあたっての倫理について学ぶ。 3. 子どもの成長・発達に関連する理論について学ぶ。 4. 小児各期の成長・発達の特徴、成長・発達に応じた関わりについて学ぶ。 5. 子どもを取り巻く家族、子育て支援について学ぶ。							

回数	学習内容	授業形態
1	1. 小児看護とは 小児看護の目的、看護の対象と特徴 2. 看護師の役割と責任	講義
2	子どもの権利と倫理 こどもまん中の考え方①	講義
3	子どもの権利と倫理 こどもまん中の考え方②	講義 グループワーク
4	子どもと家族を取り巻く社会 (1)	講義
5	子どもと家族を取り巻く社会 (2)	講義
6	子どもと家族を取り巻く社会 (3)	講義
7	発達理論 (1)	講義
8	発達理論 (2)	講義
9	子どもの成長発達と看護	講義
10	小児各期における成長発達 (1)	講義
11	小児各期における成長発達 (2)	講義
12	小児各期における成長発達 (3)	講義
13	小児各期における成長発達 (4)	講義
14	小児各期における成長発達 (5)	講義
15	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験	
備考	事前課題・課題は直前シラバスで提示する	

区分	専門分野	履修学年	2 年後期	単位数	1	時間数	30
科目名	小児看護方法 I			担当教員	野中久美子		
小児病棟で、急性期から終末期迄様々な疾患を持った小児や家族に対し看護を行ってきた。実務経験を活かし、健康障害が子どもにどのような影響を与えるのか、家族への支援も含めて学ぶ。小児を看護するうえで必要な能力が養えるように講義する。							
使用 テキスト	1) 医学書院 系統看護学講座 小児看護学 1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 1) 医学書院 系統看護学講座 小児看護学 2 小児臨床看護各論						
<u>到達目標</u> 1. 健康障害がある子どもと家族に起こりやすい状況について理解する。 2. 様々な健康状態にある子どもと家族に対する看護について理解する。 3. 特別な支援を必要とする子どもと家族への看護について理解する。 4. 家庭内・外での事故と防止について理解する。							

回数	学習内容	授業形態
1	健康障害をもつ子ども・家族の看護 (1)	講義
2	健康障害をもつ子ども・家族の看護 (2)	講義
3	経過別看護 (1)	講義
4	経過別看護 (2)	講義
5	症状を示す子どもの看護 (1)	講義
6	症状を示す子どもの看護 (2)	講義
7	症状を示す子どもの看護 (3)	講義
8	子どもの事故 (1)	講義
9	子どもの事故 (2)	講義
10	災害時の子ども家族への看護	講義
11	子どもの虐待と看護	講義
12	呼吸器に障害のある子どもと家族に対する看護	講義
13	腎機能障害のある子どもと家族に対する看護	講義
14	循環障害のある子どもと家族に対する看護	講義
15	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験	
備考	事前課題・課題は直前シラバスで提示する	

区分	専門分野	履修学年	2 年後期	単位数	1	時間数	30
科目名	小児看護方法Ⅱ			担当教員	野中久美子		
小児病棟での実務経験を活かし、小児のアセスメントに必要な技術について学べるようにする。小児のアセスメント・支援が学べるように、事例を用いて演習する。							
テキスト	1) 医学書院 系統看護学講座 小児看護学 1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 1) 医学書院 系統看護学講座 小児看護学 2 小児臨床看護各論						
<u>到達目標</u> 1. 小児に多い検査・処置について理解できる。 2. 小児看護技術を習得できる。 3. 事例展開を通し、健康障害を持つ小児と家族のアセスメントができる。 4. アセスメントを基に、小児と家族に必要な看護を考えることが出来る。							

回数	学習内容	授業形態
1	小児のアセスメントに必要な技術 (1) バイタルサイン、計測	講義
2	小児のアセスメントに必要な技術 (2) 固定法、与薬	講義
3	小児のアセスメントに必要な技術 (3) 与薬、持続点滴	講義
4	小児のアセスメントのポイント (ゴードンのアセスメントガイド)	講義
5	成長発達のアセスメント	講義・演習
6	小児の事例展開 1) 事例展開の基礎知識	講義
7	事例をもとにしたアセスメント (1) 健康	演習
8	事例をもとにしたアセスメント (2) 栄養・排泄	演習
9	事例をもとにしたアセスメント (3) 活動	演習
10	事例をもとにしたアセスメント (4) 睡眠	演習
11	事例をもとにしたアセスメント (5) 認知	演習
12	事例をもとにしたアセスメント (6) 自己概念	演習
13	事例をもとにしたアセスメント (7) コーピング	演習
14	看護診断・課題提出	講義・演習
15	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験 50% 講義中の課題・成果物 50%	
備考	事前課題・課題は直前シラバスで提示する	

科目区分	専門分野	履修学年	2 年前期	単位数	2	時間数	30
科目名	母性看護学概論保健			担当教員	渡邊さか江		
産婦人科病棟，外来で女性のライフステージ各期女性における看護を実践した経験がある．母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状について理解を深めるだけでなく，生涯を通じてのリプロダクティブヘルスに関する主要な健康問題やプレコンセプションケアなどの概念を講義と演習を通し授業を展開する．							
テキスト	1) 医学書院 系統看護学講座 母性看護学概論 2) 厚生労働統計協会 国民衛生の動向						
<u>到達目標</u> 1. 母性看護の基盤となる概念を理解する 2. 母性看護の対象と社会の変遷・現状を理解する 3. 母性看護の課題と役割について考えることができる 4. 思春期・成熟期（非妊娠期）・更年期・老年期の特徴と健康課題を理解する。 5. 女性の健康課題とリプロダクティブヘルスケアを理解する 6. 母性看護の倫理について考えることが出来る							

回数	学習内容	授業形態
1	母性看護の基盤となる概念（1） 母性とは／セクシュアリティ	講義
2	母性看護の基盤となる概念（2） ウイメンズヘルス，ヘルスプロモーション，エンパワーメント	講義
3	女性のライフサイクルにおける形態，機能の変化 女性のライフサイクルと家族	講義
4	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	講義
5	女性のライフステージ各期における看護（1）思春期，性成熟期	講義
6	女性のライフステージ各期における看護（2）更年期，老年期	講義
7	母子保健統計 母子保健施策における看護の役割	講義
8	地域母子保健・市町村の母子保健活動・産後ケアシステム	講義
9	母性看護における医療安全・事故予防	講義・演習
10	妊産婦に対する災害看護	講義・演習
11	産科医療の現状と課題	講義
12	リプロダクティブヘルスケア（1） DV の影響および看護問題／性暴力被害者支援／児童虐待	講義・演習
13	リプロダクティブヘルスケア（2） 母子の健康に影響を及ぼす生活環境要因と対策	講義・演習
14	リプロダクティブヘルスケア（3） 生殖補助医療と倫理問題／出生前診断と倫理問題	講義・演習
15	終講試験 まとめ	
評価	レポート 30% 筆記試験 70%	
備考	事前課題，課題については直前シラバスに提示する	

科目区分	専門分野	履修学年	2 年後期	単位数	1	時間数	30
科目名	母性看護方法 I			担当教員	渡邊さか江		
産科病棟で妊娠，出産，産褥期における女性の看護と家族の支援を経験している．正常と異常の境界，個別性のある観察の視点を理解し，家族のライフイベントとしての出産の理解や，安全で尊厳あるケアを提供するための倫理観を身につけることができるよう講義を行う							
テキスト 他	1) 医学書院 系統看護学講座 母性看護学各論 2) 実践マタニティ診断 第 5 版／日本助産診断実践学会 3) マタニティ診断ガイドブック 第 6 版／日本助産診断実践学会 4) 病気がみえる (10) 産科 第 4 版 /メディックメディア						
<u>到達目標</u> 1. 妊娠期の身体的特性および心理的・社会的特性を理解できる。 2. 妊娠に起こりやすいマイナートラブルとハイリスク妊婦の看護を理解できる。 3. 妊娠期に必要な保健指導内容が理解できる。 4. 分娩のメカニズムが理解できる。 5. 産婦の身体的・心理的特徴を踏まえた看護が理解できる。 6. 産褥のメカニズムが理解できる。 7. 褥婦の身体的・心理的・社会的特徴を踏まえた看護が理解できる。 8. 新生児看護に必要な新生児の正常経過について理解できる。							

回数	学習内容	授業形態
1	妊娠期 (1) 妊婦と胎児のアセスメント、妊婦健康診査	講義
2	妊娠期 (2) 妊婦の保健指導 (日常生活援助) 妊娠中のマイナートラブルと看護	講義
3	妊娠期 (3) 親になるための準備教育、妊娠期の心理、社会的特性	講義
4	妊娠期 (4) 妊娠の異常と看護	講義
5	分娩期 (1) 分娩の経過と看護	講義
6	分娩期 (2) 産婦の心理、社会的変化	講義
7	分娩期 (3) 分娩の異常と看護	講義
8	産褥期 (1) 褥婦の健康と生活のアセスメント、全身 (子宮) 復古促進の看護	講義
9	産褥期 (2) 母乳栄養確立の看護	講義
10	産褥期 (3) 育児準備、産褥期の心理、社会的変化	講義
11	産褥期 (4) 産褥の異常と看護、マタニティブルー、産後うつ、地域との連携	講義
12	新生児期 (1) 新生児の特徴と生理的变化、新生児のアセスメント	講義
13	新生児期 (2) 出生直後の看護、出生後から退院時までの看護	講義
14	新生児期 (3) 新生児の異常と看護	講義
15	終講テスト まとめ	
評価	筆記試験 100%	
備考	事前課題・課題は直前シラバスで提示する	

科目区分	専門分野	履修学年	2 年後期	単位数	1	時間数	30
科目名	母性看護方法Ⅱ			担当教員	渡邊さか江		
妊娠期，分娩期，産褥期，新生児期各期の看護過程の展開を行い，学生が臨床で必要となる判断力，支援の姿勢，専門職としての責任を理解し，実践につながる基盤を形成することを目指す．産科病棟，外来における臨床経験で培った判断力と実践知を教育に活かし，学生が母性看護の本質を理解できるように講義を行う							
テキスト 他	1) 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学【1】 母性看護学概論 2) 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学【2】 母性看護学各論 3) メディックメディア 病気がみえる【10】産科 第4版 4) 日本助産診断実践学会 マタニティ診断ガイドブック 第6版						
<u>到達目標</u> 1. 母性看護過程展開に必要な周産期のアセスメント視点と展開方法が理解できる。 2. ウェルネス思考に基づいた母性看護の看護過程がわかる。 3. 産褥、新生児期の母児の経過を標準的な指標と経日的な変化の双方から考え、正常か異常かアセスメントできる。 4. 事例の経過から母子に必要な観察点やケア内容を考えることができる。							

回数	学習内容	授業形態
1	妊娠期のアセスメントのポイント	講義
2	母性看護過程（妊娠期）	演習
3	母性看護過程（妊娠期）	演習
4	母性看護過程（妊娠期）	演習
5	分娩期のアセスメントのポイント	講義
6	パルトグラム作成	講義、演習
7	母性看護過程（分娩期）	演習
8	母性看護過程（分娩期）	演習
9	母性看護過程（分娩期）	演習
10	産褥期・新生児期のアセスメントのポイント	講義
11	母性看護過程（産褥・新生児）	演習
12	母性看護過程（産褥・新生児）	演習
13	母性看護過程（産褥・新生児）	演習
14	母性看護過程（産褥・新生児）	演習
15	終講試験	
評価	筆記試験（80%） マタニティサイクル各期のアセスメントに関してはレポート提出とする（20%）	
備考	事前課題・課題は直前シラバスで提示する	

区分	専門分野	履修学年	2 年前期	単位数	2	時間数	30
科目名	精神看護概論保健			担当教員	本澤 嘉奈子		
精神科急性期病棟、救急病棟、退院支援、訪問看護による継続医療、地域生活支援、心理支援など、多様なメンタルヘルス領域を経験する。これらの実践を基盤に、現代精神科医療の実際を踏まえ、講義ではこころとからだを切り離さずに捉える人間理解と精神看護の概論を理解する授業を行う。							
テキスト 他	1) 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎＜1＞ 2) 医学書院 系統看護学講座 別巻 精神看護の展開＜2＞ 3) 医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 1) 岩波現代文庫 学術 52 治療文化論—精神医学的再構築の試み 2) 中央法規出版 新版 精神看護学						
<u>到達目標</u> 1. 精神看護の対象、看護の役割を理解する。 2. 精神科領域で必要な法律と制度、その課題を理解する。 3. 精神保健医療福祉対策とその動向を理解する。 3. 精神疾患患者とともに暮らす家族への支援と看護師としての姿勢を理解する。 6. 精神保健福祉活動における多職種との依頼・連携・看護師の役割について理解する。 7. 災害時の地域精神保健医療活動について理解する。							

回数	学習内容	授業形態
1	かたくてやわらかい精神看護学とは何か	講義
2	現代社会における心のケアと精神看護の課題	講義
3	心的外傷（トラウマ）の理解と脳神経学の知見	講義
4	精神障害のとらえ方と偏見・スティグマ	講義
5	心のはたらきと人格形成—人格の発達 ①	講義
6	心のはたらきと人格形成—人格の発達 ②	講義
7	システムとしての人間関係	講義
8	人間関係・家族システム（IP とバウンダリー）・エンカウンターグループ	講義
9	精神症状の理解①—症状論と状態像	講義
10	精神症状の理解②—診断分類と主な精神疾患	講義
11	精神科治療①—精神療法（個人療法・集団療法・家族療法）・薬物療法	講義
12	精神科治療②—電気けいれん療法（ECT）・環境療法・社会療法	講義
13	精神障害と社会—治療の歴史・日本における精神医学	講義
14	精神障害と社会—法制度・地域支援	講義
15	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験、レポート提出、授業態度を総合的に判断する。	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

区分	専門分野	履修学年	2 年後期	単位数	1	時間数	30
科目名	精神看護方法Ⅰ			担当教員		中野真実 新谷幸恵	
精神科病棟において精神科疾患で療養する人への看護を経験している。学生がイメージしやすいよう、事例を用いて精神疾患のメカニズムを踏まえ、生活に及ぼす影響、その人の世界の理解する姿勢を学ぶための授業を行う。							
テキスト	1) 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎<1><2> 2) 医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉						
到達目標							
1. 精神に障害をもつ人の看護の基本について理解できる。 2. 精神に障害をもつ人の家族の看護について理解できる。 3. 精神に障害をもつ人の地域生活支援の実際が理解できる。 4. これからの精神看護について考えることができる。(リエゾン看護、司法精神医療と看護)							

回数	学習内容	授業形態
1	導入 精神看護方法 1 概要	講義
2	事例で学ぶ精神疾患／障害をもつ人への看護 統合失調症	講義
3	事例で学ぶ精神疾患／障害をもつ人への看護 双極性障害・うつ病	講義
4	事例で学ぶ精神疾患／障害をもつ人への看護 発達障害	講義
5	事例で学ぶ精神疾患／障害をもつ人への看護 摂食障害	講義
6	事例で学ぶ精神疾患／障害をもつ子供への看護 パーソナリティ障害	講義
7	事例で学ぶ精神疾患／障害をもつ人への看護 強迫性障害	講義
8	事例で学ぶ精神疾患／障害をもつ人への看護 解離性障害	講義
9	事例で学ぶ精神疾患／障害をもつ人への看護 薬物依存症・アルコール依存症	講義
10	事例で学ぶ精神疾患／障害をもつ人への看護 てんかん	講義
11	精神障害をもつ人への看護 精神科病棟における事故防止・安全管理と倫理的配慮	講義
12	精神障害をもつ人の地域における生活への支援 地域生活の再構築と社会参加	講義
13	精神障害をもつ人の地域における生活への支援 精神障害をもつ人の地域生活支援の実際	講義
14	日本の精神看護の発展 リエゾン精神看護、司法精神医療と看護	講義
15	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験 レポート提出	
備考	事前課題・課題は直前シラバスで提示する	

区分	専門分野	履修学年	2 年後期	単位数	1	時間数	30
科目名	精神看護方法Ⅱ			担当教員	中野真実		
精神科病棟において精神科疾患で療養する人への看護を経験している。事例を用いて精神疾患のメカニズムを踏まえ、生活に及ぼす影響、その人の世界の理解したうえで、強みを活かしたセルフケア支援を看護展開する授業を行う。また、精神に障害のある人とのコミュニケーションをとるためのスキルや姿勢を考える授業を行う。							
テキスト 他	1) 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎<1><2> 2) 医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 3) 南江堂 精神看護学Ⅰ 精神保健・多職種のつながり ころ・からだ・かかわりのプラクティス 4) メヂカルフレンド社 新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論／精神保健						
到達目標 1. 患者－看護師関係の成立、発展について理解できる。 2. 再構成の実践を通し、自己洞察、他者理解の意義を理解する。 3. セルフケアの援助について理解できる。 4. 生きる力と強さに着目した援助について理解できる。(ストレングス) 5. 精神の健康増進、回復の援助方法を理解できる(SST、心理教育) 6. セルフケアの援助について理解できる。(オレム・アンダーウッド看護モデル) 7. 事例を用いて看護展開が理解できる。							

回数	学習内容	授業形態
1	精神看護におけるコミュニケーション技術 (1) コミュニケーションの原則	講義
2	精神看護におけるコミュニケーション技術 (2) コミュニケーションの技法	講義
3	精神看護におけるコミュニケーション技術 (3) コミュニケーションの技法	講義・演習
4	再構成とプロセスレコード (1) 自己洞察の意義 プロセスレコードの目的、方法	講義・演習
5	再構成とプロセスレコード (2) プロセスレコード検討会	講義・演習
6	オレム・アンダーウッド看護モデル	講義
7	精神看護過程における理論 (1) ストレングス、SST、心理教育	講義
8	精神看護過程における理論 (2) ストレングス、SST、心理教育	講義・演習
9	主な精神疾患をもつ人の看護過程の展開 統合失調症、気分障害、パーソナリティ障害、強迫性障害、摂食障害	講義・演習
10	主な精神疾患をもつ人の看護過程の展開 アセスメントの視点	講義・演習
11	主な精神疾患をもつ人の看護過程の展開 患者像	講義・演習
12	主な精神疾患をもつ人の看護過程の展開 看護問題の明確化	講義・演習
13	主な精神疾患をもつ人の看護過程の展開 計画立案	講義・演習
14	主な精神疾患をもつ人の看護過程の展開 実施・評価	講義・演習
15	終講試験 まとめ解説	
評価	筆記試験 レポート提出 グループワークの参加状況など	
備考	事前課題・課題は直前シラバスで提示する	

科目区分	専門分野	履修学年	3 年後期	単位数	1	時間数	15
科目名	医療安全			担当教員	野中久美子		
臨床で事故防止対策などを行ってきた経験を活かし、医療現場での事故発生要因から事故防止対策について考えられるよう講義・演習を行う。							
テキスト	1) 医学書院 系統看護学講座 統合 医療安全						
<u>到達目標</u> 1. 医療機関における安全対策の仕組みについて理解する。 2. 看護業務を行う際の環境とリスクを理解する。 3. 主な医療事故の背景、要因、対策について理解す。 4. 危険予知について考える。							

回数	学習内容	授業形態
1	医療安全の取り組み、事故の現状と課題	講義
2	医療事故発生要因と事故防止対策 ①診療の補助業務における事故防止	講義
3	医療事故発生要因と事故防止対策 ②日常生活補助業務における事故防止	講義
4	医療事故発生要因と事故防止対策 ③コミュニケーションエラーと事故防止	講義
5	看護学生の実習と安全	講義・演習
6	事故事例をもとに、発生要因、防止策についてグループワーク	講義・演習
7	グループワークの発表・意見交換	講義・演習
8	終講試験	
評価	筆記試験、事例グループワークレポート	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

専門分野	看護の統合と実践	履修学年	3 年後期	単位数	1	時間数	15
科目名	看護管理			担当教員	小林由起子		
テキスト	1) 医学書院 系統看護学講座 看護管理						
<u>到達目標</u> 1. 看護サービスのマネジメントについて理解する。 2. 看護ケアのマネジメントについて理解する。 3. 看護職としてのセルフマネジメントについて理解する。 4. マネジメントにおける必要な知識を理解する。 5. 看護を取り巻く諸制度について理解する。							

回数	学習内容	授業形態
1	看護サービスのマネジメント	講義
2	看護ケアのマネジメント (1)	講義
3	看護ケアのマネジメント (2)	講義・演習
4	看護職としてのセルフマネジメント (1)	講義・演習
5	看護職としてのセルフマネジメント (2)	講義・演習
6	マネジメントにおける必要な知識	講義
7	看護を取り巻く諸制度	講義
8	筆記試験	
評価	筆記試験 70% 課題レポートなど 30%	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

科目区分	看護の統合	履修学年	3 年後期	単位数	1	時間数	15
科目名	災害看護学・国際看護学			担当教員	渡邊さか江 外部講師		
臨床において多様な患者や家族の看護に取り組んできた経験に基づき、災害時における脆弱な立場にある人々への看護や多様な文化的背景を持つ人々への看護実践、国際協力の考え方について講義を行う。							
テキスト 他	1) 医学書院 系統看護学講座 統合 災害看護学・国際看護学						
<u>到達目標</u> 1. 災害看護の基礎的な知識を学び看護の役割と機能を理解する。 2. 災害に関する法制度を理解する。 3. 災害時の支援体制、災害医療活動の特徴を理解する。 4. 被災者と支援者の心理の理解と援助を学ぶ。 5. 国際看護の変遷を学ぶ。 6. 国境を越える人の社会的動向に伴い、グローバルに看護を考えることの必要性を学ぶ。 7. 世界の保健医療を支える機関と重要な概念について学ぶ。 8. 国際協力活動で取り組む看護職の現状について学ぶ。							

回数	学習内容	授業形態
1	災害看護学 (1) 災害医療の基礎知識	講義
2	災害看護学 (2) 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護	講義 演習
3	災害看護学 (3) 被災者特性に応じた災害看護の展開	講義 演習
4	災害看護学 (4) 地震災害看護の展開	講義 演習
5	国際看護学 (1) 健康を取り巻く世界の特徴と国際看護	講義 演習
6	国際看護学 (2) 国際協力と看護／開発協力と看護	講義 演習
7	国際看護学 (3) ・わが国における文化や制度を考慮した在留外国人への看護の実践 ・21 世紀の国際協力の課題	講義 演習
8	終講試験	
評価	筆記試験 50% 課題レポート 50%	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

科目区分	看護の統合	履修学年	3 年前・後期	単位数	1	時間数	45
科目名	看護研究			担当教員	渡邊さか江		
助産師，看護師としての臨床経験および学会での口頭発表等の研究実践経験を活かし，研究課題の明確化，倫理的配慮などをはじめ，看護研究から発表までの一連の研究プロセスを具体的に講義する。							
使用 テキスト	1) メヂカルフレンド社 看護学生のためのケーススタディ 2) 系統看護学講座 別巻 看護研究						
<u>到達目標</u> 1. 看護研究とは何かを理解することができる。 2. 文献検索の方法と活用の方法がわかり、実際に行うことができる。 3. 批判的視点をもつことができる。 4. 他者に伝わりやすい発表ができる。 5. 他者の研究発表に興味を持って聞くことができる。							

回数	学習内容	授業形態
1	研究とはなにか 研究の種類 看護研究とはなにか	講義・演習
2	なぜ看護に研究が必要か 研究と倫理について	講義・演習
3	文献検索の方法と実践	講義・演習
4	研究計画書の作成	講義・演習
5	研究成果のまとめ方	講義・演習
6	クリティーク (1)	講義・演習
7	クリティーク (2)	演習
8	クリティーク (3)	演習
9	クリティーク (4)	演習
10	クリティーク (5)	演習
11	研究発表 (1)	演習
12	研究発表 (2)	演習

13	研究発表（3）	演習
14	研究発表（4）	演習
15	研究発表（5）	演習
16	研究発表（6）	演習
17	研究発表・まとめ	演習
18	埼玉県看護学校看護研究発表会（1）	演習
19	埼玉県看護学校看護研究発表会（2）	演習
20	埼玉県看護学校看護研究発表会（3）	演習
21	埼玉県看護学校看護研究発表会（4）	演習
22	看護研究まとめ（1）	演習
23	看護研究まとめ（2）	演習
評価	提出物、研究論文、研究発表	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

科目区分	専門分野	履修学年	3 年後期	単位数	1	時間数	30
科目名	看護の統合 I			担当教員	土澤るり		
病院で多職種と連携しながら看護を実践したことを活かして講義・演習を行う。理学療法士や言語聴覚士の視点での身体機能の見方や介入を学ぶ。また、ベッドサイドでの医療機器の管理について臨床工学技士から学ぶ。多職種から学んだことを活かした演習を行う。							
テキスト	医学書院 基礎看護学 2 基礎看護技術 I 他 ※演習に必要なテキストを選択						
<u>到達目標</u> 1. 理学療法士と連携した運動機能障害へのアプローチを考える。 2. 言語聴覚療法士と連携した摂食・嚥下、言語障害へのアプローチを考える。 3. ベッドサイドにある医療機器の管理について学ぶ。 4. 画像診断を活かして患者の状態を判断する。							

回数	学習内容	授業形態
1	理学療法と看護 (1)	講義・実技演習
2	理学療法と看護 (2)	講義・実技演習
3	理学療法と看護 (3)	講義・実技演習
4	摂食・嚥下への自立支援	講義・演習
5	言語聴覚療法と看護	講義・演習
6	ベッドサイドにある医療機器の取り扱い	講義
7	人工腎臓装置の管理	講義
8	画像診断と看護 (1)	講義
9	画像診断と看護 (2)	講義
10	運動障害のある人のメンタルシミュレーション	演習・実技演習
11	嚥下・言語障害のある人のメンタルシミュレーション	演習・実技演習
12	人工透析を受ける人のメンタルシミュレーション	演習・実技演習
13	呼吸障害のある人とメンタルシミュレーション	演習・実技演習
14	小児のメンタルシミュレーション (1)	演習・実技演習
15	小児のメンタルシミュレーション (2)	演習・実技演習
評価	筆記試験 70% 評価表で総合的に評価 30%	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

科目区分	専門分野	履修学年	3 年前期	単位数	1	時間数	30
科目名	看護の統合Ⅱ			担当教員	小林由起子		
病院において、看護研究を行い、論文を作成した。この経験から、学生が卒業時の到達目標を見据えて、自らの能動的学習能力（読解力、理解力、判断力）を獲得できるよう学修することができるよう指導していく。							
テキスト	専門基礎分野、専門分野の授業で使用了テキスト						
<u>到達目標</u> 1. 専門基礎分野、専門分野において、卒業するにふさわしい学習能力が備わっているかを客観的に確認できる。 2. 卒業時の到達目標を見据えて、試験方式で自らの到達度を評価できる。 3. 自らの到達度の評価をもとに、不足している能動的学習能力を獲得できるよう学修する。							

回数	学習内容	授業形態
1	専門基礎分野の振り返り 1	講義
2	専門基礎分野の振り返り 2	講義
3	専門基礎分野の振り返り 3	講義
4	専門基礎分野の振り返り 4	講義
5	専門基礎分野の振り返り 5	講義
6	専門基礎分野の振り返り 6	講義
7	専門分野の振り返り 1	講義
8	専門分野の振り返り 2	講義
9	専門分野の振り返り 3	講義
10	専門分野の振り返り 4	講義
11	専門分野の振り返り 5	講義
12	専門分野の振り返り 6	講義
13	専門分野の振り返り 7	講義
14	終講試験（1）	
15	終講試験（2）	
評価	筆記試験 100%	
備考	事前課題、課題については直前シラバスに提示する。	

シラバス (臨地実習)

基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ
	基礎看護学実習Ⅱ
地域・在宅看護論	地域・在宅看護論実習Ⅰ
	地域・在宅看護論実習Ⅱ
成人看護学	成人看護学実習Ⅰ
	成人看護学実習Ⅱ
老年看護学	老年看護学実習
小児看護学	小児看護学実習
母性看護学	母性看護学実習
精神看護学	精神看護学実習
看護の統合と実践	統合実習

分野	専門	領域	基礎看護学		
履修学年	1 年後期	単位数	1	時間数	45
科目名	基礎看護学実習 I	担当教員	土澤るり 他専任教員 (実務経験のある教員)		
目的	対象を取り巻く療養環境、看護活動の実際を知り、日常生活援助の実際を通じて、看護を実践するための基礎的能力を養う。				
目標	1. 病院施設の機能・役割・環境について理解できる。 2. 対象の療養環境について理解できる。 3. 対象と適切なコミュニケーションがとれ、思いを知ることができる。 4. 看護活動の実際を知り、看護の機能と役割を知る。 5. 指導の下、日常生活援助を安全に実施できる。 6. 看護者としての態度を身につけることができる。				
実習期間	1 年次 2 月 実習配置で指定された 7 日間（実践活動外実習含む）				
実習内容	1. 対象の療養環境を理解し、病室・病床の環境整備を行う。 2. 対象を尊重した態度で、コミュニケーションをとる。 3. 看護活動の実際を知り、看護の機能と役割を知る。 4. 指導の下、日常生活援助を安全に実施する。 5. 看護学生としての自覚と責任をもち行動する。				
実習方法	・病棟オリエンテーションを受け、病棟の特徴を理解しする。 ・患者の状態（生活行動で不自由な点など）を踏まえて、環境整備で留意する点を考える。 ・対象をよく観察した結果を踏まえ、対象に合わせたコミュニケーションを行う。 ・看護師について見学を行い、看護師の言動の意味を考える。 ・看護師のケアを見学し、対象をよく観察した結果を踏まえて、安全・安楽に援助を行う。 ・看護学生としての自覚と責任をもち、どのように行動すべきかを考える。				
備考	・詳細は、実習要項を参照する。				
評価方法	実習評価表に基づき評価する。				

分野	専門	領域	基礎看護学		
履修学年	2 年後期	単位数	3	時間数	90
科目名	基礎看護学実習Ⅱ	担当教員	土澤るり 他専任教員 (実務経験のある教員)		
目的	看護過程のプロセスを用い、科学的根拠に基づいた看護が実践できる基礎的能力を養う。				
目標	1. 対象の看護に必要な情報収集ができる。 2. アセスメントから、全体像を把握し看護上の問題点を明確にできる。 3. 対象の問題解決に必要な看護計画を立案できる。 4. 安全・安楽・自立を考えながら日常生活援助が実施できる。 5. 実施した援助を振り返り、計画の評価・修正ができる。 6. 医療チームの一員として、責任ある行動がとれる。 7. 自ら課題に取り組み、主体的に行動できる。				
実習期間	2 年次 12 月 実習配置で指定された 12 日間（実践活動外実習含む）				
実習内容	1. 実践活動外実習（実習要項参照） 2. 対象の身体的・心理的・社会的側面から情報を収集する。 3. 11 の機能的パターンの情報を分析し解釈する。 4. 各パターンの関連性をみて看護上の問題点（看護診断）を明らかにする。 5. 目標達成に向けた具体的な看護計画を立案する。 6. 計画に沿って日常生活援助を実施する。 7. 看護計画の妥当性や、援助方法、目標の達成度を評価し、必要に応じ修正する。				
実習方法	・事前学習する。 ・注目する検査項目、データを一覧にして推移を明らかにする。 ・気がかりな現状の原因・誘因を挙げ、成り行きを考えて情報の意味を考える。 ・パターンが機能的か、機能不全か、潜在的機能不全かを判断する。 ・関連図を作成する。 ・看護診断名をつけて、問題リストを作成する。 ・目標達成に向けた具体的な看護計画を立案する。 ・計画に基づき、安全・安楽に日常生活援助を行う。 ・評価して修正する。 ・チームの一員として責任をもち行動する。				
備考	・詳細は、実習要項を参照する。				
評価方法	実習評価表に基づき評価する。				

分野	専門	領域	地域・在宅看護論		
履修学年	2 年生	単位数	2	時間数	60
科目名	地域・在宅看護論実習Ⅰ	担当教員	熊澤章司郎 (実務経験のある教員)		
目的	地域で生活する人々が、その人らしく健康な生活を継続できるよう、地域特性や社会資源を踏まえた健康支援について理解する。				
目標	1. 地域で生活する人々の健康状態や生活課題、および地域の特性を理解する。 2. 地域包括ケアシステムにおける各施設・事業所の機能と役割を理解する。 3. 地域の人々の暮らしを支えるための多職種連携や、各機関のつながりを理解する。				
実習期間	2 年次 実習配置で指定された期間（実践活動外実習含む）				
実習内容	《保健所》 1. 管轄地域全体の人口動態、疾病構造、主な死因などの健康統計がわかる。 2. 地域が抱える広域的・専門的な健康課題（感染症、難病、災害対策など）がわかる。 3. 地域保健法に基づく保健所の役割（広域的・専門的・技術的拠点）がわかる。 4. 市町村（保健センター）との役割分担がわかる。 5. 対人保健サービスと対物保健サービス（食品衛生・環境衛生など）の違いがわかる。 6. 医療機関、市町村、学校、事業所等との連携体制がわかる。 7. 難病対策や精神保健福祉における関係機関とのネットワークがわかる。 《地域包括支援センターまたは居宅介護支援》 1. 在宅で暮らす高齢者や家族（介護者）が抱える生活上の困りごとや相談内容の傾向がわかる。 2. 独居、老老介護、認知症など、地域ごとの家族・世帯の状況がわかる。 3. 地域包括支援センターの 4 つの機能（総合相談、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント、介護予防）がわかる。 4. 居宅介護支援事業所の機能（介護サービスの総合支援）がわかる。 5. 介護保険制度におけるケアマネジメントのプロセス（相談～給付）がわかる。 6. 医療・介護・福祉サービスをつなぐコーディネート機能がわかる。 7. 地域ケア会議やサービス担当者会議の役割がわかる。 《介護老人保健施設もしくは介護老人保健施設、通所施設》 1. 施設利用者の要介護度、疾患、認知機能の状況がわかる。 2. 集団生活の中での個々の生活リズムや、楽しみ・生きがいについて知る。 3. 各施設の設置目的の違い（在宅復帰、終の棲家、在宅生活支援）がわかる。 4. 施設における生活環境の工夫（バリアフリー、プライバシー配慮など）がわかる。 5. 施設内で働く多職種（看護、介護、リハビリ、栄養、相談員）の役割と協働がわかる。 6. 在宅復帰や重度化対応における外部機関との連携がわかる 《地域支援活動》 1. イベントに来場する地域住民の属性（年齢層、居住地区）を知る。 2. 住民の健康意識（特定健診の受診状況、運動習慣、食事への関心など）がわかる。 3. 地域行事が果たす「住民同士の交流」「健康啓発」の役割がわかる。 4. 行政や民間団体が協働で行うイベントの運営体制を知る。				

	5. 収集したデータ（測定値・アンケート）から見える地域の健康特性がわかる。 6. データに基づく地域の強みと課題の発見ができる。
実習方法	・地域看護活動について学習し、地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・保健所それぞれの役割と活動にどのような場面で活用されているかを学習し実習に臨む。 ・介護保険施設(介護老人保健施設、介護老人福祉施設)、通所介護事業所(通所リハビリテーション、通所介護)それぞれの役割と活用場面を学習し実習に臨む。 ・地域・在宅看護論における既存学習を生かし、テーマをもって学習活動を行う。 ・各実習場所の事業プログラムに参加できる場合は、参加に必要な服装等の準備を確認し参加する。事業プログラムに参加できない場合には、各職種がどのように関わり、連携をして運営しているのか、実施した後の利用者の反応等を聴取する。 ・グループワークを通して、各事業所での学びを共有する。
備考	・本科目を受講するためには、各専門領域の単位取得が前提条件である。 ・詳細は、実習要項を参照する。
評価方法	実習評価表に基づき評価する。

分野	専門	領域	地域・在宅看護論		
履修学年	3 年生	単位数	1	時間数	30
科目名	地域・在宅看護論実習Ⅱ	担当教員	熊澤章司郎 (実務経験のある教員)		
目的	地域で生活する療養者や家族が、その人らしく健康な生活を継続できるよう、療養者および家族に対する個別的な看護の役割を統合的に理解する。				
目標	1. 在宅療養者とその家族を全体的に把握し、その多様性と個別性が理解できる。 2. 在宅療養者とその家族の抱える問題をアセスメントすることができる。 3. 在宅療養者の健康の保持・増進・疾病予防の為に必要な看護と社会資源の活用が理解できる。 4. 訪問看護に必要な基本姿勢・態度・技術を見学し、身に付けることができる。 5. 地域看護の意義と役割、及び看護の継続性が理解できる。 6. 在宅療養を継続するための他職種との連携から看護の役割が理解できる。				
実習期間	3 年次 実習配置で指定された期間（実践活動外実習含む）				
実習内容	1. 事前情報の整理ができる。 2. 生活の場の観察ができる。 3. アセスメントの視点がわかる。 4. 看護問題の明確化ができる。 5. 社会資源の活用状況がわかる。 6. 導入の意図がわかる。 7. 訪問看護の基本姿勢がわかる。 8. 看護技術の実践と見学ができる。 9. 看護目標の設定ができる。 10. 看護の継続性がわかる。 11. 多職種連携の実際がわかる。 12. 訪問看護師の役割がわかる。				
実習方法	・在宅療養者 1 名を受け持ち、関係性を築き、情報を収集して全体像を把握する。 ・アセスメントを通して、自宅療養における看護問題を抽出する。 ・カンファレンスで討議を行い、学びを共有して発展させる。 ・在宅医療チームの一員として行動する。				
備考	・本科目を受講するためには、各専門領域の単位取得が前提条件である。 ・詳細は、実習要項を参照する。				
評価方法	実習評価表に基づき評価する。				

分野	専門	領域	成人看護学		
履修学年	2 年後期	単位数	1	時間数	30
科目名	成人看護学実習 I	担当教員	菅谷梨香 土澤るり (実務経験のある教員)		
目的	がん患者の診断から終末期までを支える医療と看護師の役割について学ぶ。				
目標	1. がん患者の診断から終末期までを支える看護師の役割を述べることができる。 2. 治療段階の患者への緩和ケアの実際を知り、看護の役割を述べることができる。 3. 緩和ケア病棟の療養環境を知ることができる。 4. 緩和ケア病棟の看護の実際を知り、専門的緩和ケアについて考えたことを述べる ことができる。 5. 緩和ケアにおける多職種連携を知り、看護師の役割を述べることができる。				
実習期間	2 年次 10 月 実習配置で指定された 5 日間				
実習内容	1. 実践活動外実習（実習要項参照） 2. がん患者の診断から終末期までを支える看護師の役割を理解する。 3. 治療段階の患者への緩和ケアの実際を知り、看護の役割を理解する。 4. 緩和ケア病棟の環境を理解する。 5. 緩和ケア病棟の看護の実際を知り、専門的緩和ケアについて考える。 6. 緩和ケアにおける他職種連携を知り、看護師の役割を学ぶ。				
実習方法	・がんの診断、治療、看取りの時期における看護師の役割について講義を受ける。 ・化学療法室、内視鏡室を見学する。 ・社会生活を営みながら治療を続ける患者への看護について考える。 ・緩和ケアという視点で看護師として何ができるかを考える。 ・緩和ケアが行われている環境の特徴について考える。				
備考	・本科目を受講するためには、各専門領域の単位取得が前提条件である。 ・詳細は、実習要項を参照する。				
評価方法	実習評価表に基づき評価する。				

分野	専門	領域	成人看護学		
履修学年	3 年前期	単位数	2	時間数	90
科目名	成人看護学実習Ⅱ	担当教員	菅谷梨香 土澤るり (実務経験のある教員)		
目的	成人期にある対象者を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された存在として幅広く理解し、健康状態に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。				
目標	1. 成人期にある対象者の生活および健康を、自然・社会・文化的環境との相互作用の観点から理解することができる。 2. 成人期にある対象者の看護上の課題を把握し、対象の個別性を考えた看護が展開できる。 3. 対象者の価値観を認識し、専門職業人としての共感的態度および倫理に基づいた看護を実践できる。 4. 健康状態に応じた看護を実践できる				
実習期間	3 年次 5～9 月 実習配置で指定された 12 日間（実践活動外実習含む）				
実習内容	1. 実践活動外実習（実習要項参照） 2. 成人期にある対象者の生活および健康を自然・社会・文化的環境との相互作用の観点から理解する。 3. 成人期にある対象者の看護上の課題を把握し、対象の個別性を考えた看護を展開する。 4. 対象者の価値観を認識し、専門職業人としての共感的態度および倫理に基づいた看護を実践する。 5. 健康状態に応じた看護を実践する。				
実習方法	・手術を受ける対象には、手術を受けることや麻酔による心身への影響を踏まえ、早期回復促進に向けて援助を行う。 ・回復期にある対象には、機能障害や生活制限および障害受容プロセスに応じた援助を行う。 ・慢性期にある対象には、病いとともに生きる対象・家族を理解し、よりよい生活習慣・ライフサイクルの調整に向けて援助する。 ・終末期にある対象には、全人的苦痛をアセスメントし、症状緩和のための援助を行う。				
備考	・本科目を受講するためには、各専門領域の単位取得が前提条件である。 ・詳細は、実習要項を参照する。				
評価方法	実習評価表に基づき評価する。				

分野	専門	領域	老年看護学		
履修学年	3 年前期	単位数	3	時間数	90
科目名	老年看護学実習	担当教員	土澤るり		
目的	老年期にある対象の健康状態および日常生活上の問題を把握し、その人らしさを尊重した自立した生活を支援する看護を行うための基礎的能力を修得する。現代社会の保健・医療・福祉の現状を知り、看護の役割を理解する				
目標	1. 老年期にある対象の発達課題をふまえて生活背景や生活習慣を捉え、身体心理社会的に統合された存在として理解する。 2. 対象の健康課題や日常生活上の問題を最小化し、可能性の最大化を図り、対象とその家族が望む生活が実現できるように支援する。 3. 対象が活用できるフォーマルな資源とインフォーマルな資源の活用について考え、連携する他職種と看護師の役割について学ぶ。 4. 老年看護における自己の看護観を明らかにする。				
実習期間	3 年次 4～10 月				
実習内容	1. 高齢患者 1 名を受けもち看護過程の展開を行う。 2. 実践活動外実習 1) 全体オリエンテーション 2) 看護技術の習得 3) 実習のまとめ				
実習方法	・ 高齢患者 1 名を受け持ち、関係性を築き、情報を収集して全体像を把握する。 ・ 看護問題を抽出し、立案した看護計画に沿って対象の強みを活かした日常生活援助を行う。 ・ カンファレンスで討議を行い、学びを共有して発展させる。 ・ 医療チームの一員として行動する。				
備考	・ 本科目を受講するためには、各専門領域の単位取得が前提条件である。 ・ 詳細は、実習要項を参照する。				
評価方法	実習評価表に基づき評価する。				

分野	専門	領域	小児看護学		
履修学年	3 年	単位数	2	時間数	90
科目名	小児看護学実習	担当教員	野中久美子 (実務経験のある教員)		
目的	小児期にある対象の成長・発達を含めた特性を理解し、各健康レベルにある小児や家族の看護に必要な基礎を学ぶ。				
目標	1. 小児各期の成長・発達を理解し、対象の発達段階を把握できる。 2. 小児科外来を受診する対象の健康問題を把握し、小児や家族に与える影響について理解できる。 3. 外来で行われる検査・処置助などの実際を通し、小児とその家族に対する看護の方法について理解できる。 4. 保育所実習を通して、健康な乳幼児の成長・発達を理解し、基本的な生活習慣や社会性の発達を促す援助ができる。				
実習期間	3 年次 4 月から 9 月				
実習内容	1. 実習に向けた準備 1) 発達に応じた遊び、日常生活援助方法 2) フェルトを用いた名札づくり 2. 小児科外来 1) 病児の診察見学 2) 専門外来の診察見学 3) 乳児検診の実際の見学 4) 予防接種の実際の見学 5) 処置や安全な固定法の見学 6) 診察時、処置時のディストラクションの実施 3. 保育所実習 1) 保育所オリエンテーションを受ける 2) 発達別クラスに別れ保育 3) 発達別遊び、日常生活援助 4. 実践活動外実習（実習要項参照）				
実習方法	小児科外来 ・ 診察を受ける患児、専門外来を受診する患児 1 名ずつ受け持ち、発達や健康障害、必要な看護援助についてアセスメントする ・ 小児科外来で行われる、診察や治療処置、乳幼児健診や予防接種の実際の見学 ・ グループワークで学びを共有し理解を深める 保育所 ・ 各クラスに別れ保育士の指導の元コミュニケーション、遊び、日常生活支援などの実施				
備考	・ 本科目を受講するためには、各専門領域の単位取得が前提条件である。 ・ 詳細は、実習要項を参照する。				
評価方法	実習評価表に基づき評価する。				

分野	専門	領域	母性看護学		
履修学年	3 年	単位数	3	時間数	120
科目名	母性看護学実習	担当教員	渡邊さか江		
目的	周産期における母子の特性を理解するとともに、妊婦、産婦、褥婦および新生児の特徴を理解し、対象者に応じた看護ができる基礎的能力を養う				
目標	1. 妊婦における正常な経過と身体的変化、心理、社会的変化を理解できる 2. 産婦の正常な分娩経過とその特徴が理解できる 3. 帝王切開を受ける産婦の心理および手術室での看護師の役割を学ぶことができる 4. 褥婦の正常な経過とその特徴を理解するとともに、母乳栄養確立、母子関係確立に向けてアセスメントができる 5. 新生児の身体的特徴、生理的变化が理解でき、子宮外生活適応に向けた援助ができる 6. ハイリスク状態にある母児の特徴を理解し、援助の実際を知ることができる 7. 生命の尊厳、および母性看護について自己の学びを深めることができる				
実習期間	3 年次 4 月～11 月 実習配置で指定された 14 日間（実践活動外実習含む）				
実習内容	1. 妊婦における正常な経過と身体的変化、心理、社会的変化を理解できる 1) 妊婦健康診査 2) 腹囲子宮底測定、レオポルド触診法 2. 産婦の正常な分娩経過とその特徴が理解できる 1) 分娩見学 3. 帝王切開を受ける産婦の心理および手術室での看護師の役割を学ぶことができる 1) 帝王切開見学 4. 褥婦の正常な経過とその特徴を理解するとともに、母乳栄養確立、母子関係確立に向けてアセスメントができる 1) 進行性変化、退行性変化の観察 2) 保健指導見学 5. 新生児の身体的特徴、生理的变化が理解でき、子宮外生活適応に向けた援助ができる 1) 授乳、沐浴 2) バイタルサイン測定 6. ハイリスク状態にある母児の特徴を理解し、援助の実際を知ることができる 1) 総合周産期母子医療センター見学 7. 実践活動外実習（実習要項参照）				
実習方法	・ 2 名 1 組で妊産褥婦および新生児を受け持ち看護の実際を学ぶ 1) 妊婦健診を見学し、アセスメントを行う 2) 分娩進行に伴う産婦への援助を学ぶ 3) 産褥期における進行性変化、退行性変化の観察方法および褥婦への保健指導を学ぶ 4) 安全に配慮した新生児のケアの方法を学ぶ ・ 8 名程度のグループで総合周産期母子医療センターの施設見学を行う				
備考	・ 本科目を受講するためには、母性看護学概論、母性看護方法Ⅰ・Ⅱの単位取得が前提条件である。 ・ 詳細は、実習要項を参照する。				
評価方法	実習評価表に基づき評価する。				

分野	専門	領域	精神看護学		
履修学年	3 年前期	単位数	3	時間数	90
科目名	精神看護学実習	担当教員	中野真実		
目的	精神に障害をもつ人を総合的に理解し、対象に応じた看護が出来る基礎的能力と、人間を尊重する態度を養う。				
目標	1. 地域で活動する場を見学し、保健医療福祉チームのメンバーとの連携と看護職の役割が理解できる。 2. 精神の疾患や障害が患者や家族の日常生活にどのような影響を及ぼしているかが理解できる。 3. 患者のセルフケア能力に応じた日常生活行動の援助ができる。 4. 対象に必要な社会資源が理解できる。 5. 患者の人権保護の重要性を理解し、尊重する態度を取ることができる。 6. 患者-看護師関係の発展過程を通して自己洞察を深め、治療的な関わりができる。 7. 疾患の各期の特徴を理解し、継続看護について考えることが出来る。 8. 精神看護に向けて主体的に学ぶ取り組みができ、自己の課題を明確にできる。				
実習期間	3 年次 4～10 月				
実習内容	1. 精神に障害をもつ人が地域で活動する場を見学し、保健医療福祉チームのメンバーとの連携と看護職の役割を理解する。 2. 精神科病棟の構造・特殊性を理解する。 3. 各種療法を受ける対象の反応を考える。 4. 患者を受け持ち、対象のセルフケア能力に応じた日常生活駆動の援助を行う。 5. 精神疾患の各期の特徴を理解し、継続看護について考える。 6. 患者-看護師関係の発展過程を通して自己洞察を深め、治療的な関わりをする。				
実習方法	・就労継続支援 A 型事業所に行き、就労する人と活動支援の実際を学ぶ。 ・精神病院で患者を受け持ち、看護過程を展開する。 ・各種療法の見学を行う。 ・プロセスレコードを用いて自己洞察を深める。 ・埼玉精神神経センターを見学し、スーパー救急や行われている看護の実際を学ぶ。				
備考	・本科目を受講するためには、各専門領域の単位取得が前提条件である。 ・詳細は、実習要項を参照する。				
評価方法	実習評価表に基づき評価する。				

分野	専門	領域	看護の統合と実践		
履修学年	3 年後期	単位数	3	時間数	120
科目名	統合実習	担当教員	土澤るり (実務経験のある教員)		
目的	医療チームの一員として、協働する基本的能力および状況を判断して看護を実践する基本的能力を養う。また、他職種との協働について学び、卒業後の専門職業人としての姿勢について考察し、自己課題を明らかにする。				
目標	1. 複数名の患者を受け持ち、状況を判断して優先順位を決めて行動する。 2. 他部門の見学を行い、他職種との協働の実際を学ぶ。 3. 看護部組織におけるマネジメント、看護管理の実際を学ぶ。 4. 将来の看護師像を描くとともに、自己の課題を明確にする				
実習期間	3 年次 10 月 実習配置で指定された 12 日間（実践活動外実習含む）				
実習内容	1. 複数の患者の状況を判断した看護援助 1) 情報共有 2) タイムマネジメント 3) 協働 4) 連絡・報告・相談 5) リーダーシップとメンバーシップ 6) アサーティブコミュニケーション 2. 看護管理者の役割の実際 1) 病院組織における看護管理 2) 病棟管理者の役割と業務 3. 手術室・透析室における他職種連携 1) 他職種と協働する看護の実際 4. 看護実践の実際 1) 看護チームリーダーの役割 2) チームメンバー間の協働・連携 5. 実践活動外実習（実習要項参照）				
実習方法	・ チームで情報を共有し、状況に合わせて調整しながら 2 名の患者の援助を行う。 ・ 病棟管理者から病棟でオリエンテーションを受け、同行して業務を見学する。 ・ 手術室または透析室で他職種と協働する看護の実践を見学する。 ・ チームリーダーまたは病棟看護師の看護実践をシャドーイングする。				
備考	・ 本科目を受講するためには、各専門領域の単位取得が前提条件である。 ・ 詳細は、実習要項を参照する。				
評価方法	実習評価表に基づき評価する。				